

岩手県が公表した 「最大クラス津波浸水想定」について

令和4年7月13日

危機管理監 防災危機管理課

1. 津波浸水想定について

1-1	津波防災地域づくりに関する法律	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 2
1-2	津波浸水想定の設定にあたって	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 3
1-3	「解説書」津波対策の考え方 要点	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 4
1-4	「解説書」留意事項 要点	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 5
1-5	「解説書」悪条件下とは	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 6
1-6	国(内閣府)と県の浸水想定の違い	・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 7

2. 公表資料について

1. 津波浸水想定について

1-1 津波防災地域づくりに関する法律

津波防災地域づくりに関する法律の概要

基本理念 「なんとしても人命を守る」

- 平成23年12月7日、「津波防災地域づくりに関する法律」が成立
- 本法により、将来起こりうる最大クラスの津波災害の防止・軽減のため、全国で活用可能な制度を創設。

法律の概要（平成23年12月14日公布 平成23年12月27日一部施行、平成24年6月12日全部施行）

基本方針（国土交通大臣） 平成23年12月27日

基礎調査の実施

都道府県は津波による災害の発生のおそれがある沿岸の陸域及び海域に関する地形、地質、土地利用の状況その他の事項に関する調査を行う。

津波浸水想定の設定

都道府県知事は、基本指針に基づき、かつ基礎調査の結果を踏まえ、津波浸水想定（津波があった場合に想定される浸水の区域及び水深）を設定し、公表する。

推進計画の作成

市町村は、基本指針に基づき、かつ、津波浸水想定を踏まえ、津波防災地域づくりを総合的に推進するための計画（推進計画）を作成することができる。

津波災害警戒区域等の指定

都道府県知事は、警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域を津波災害警戒区域として、または開発行為及び建築を制限すべき土地の区域を津波災害特別警戒区域として指定することができる。

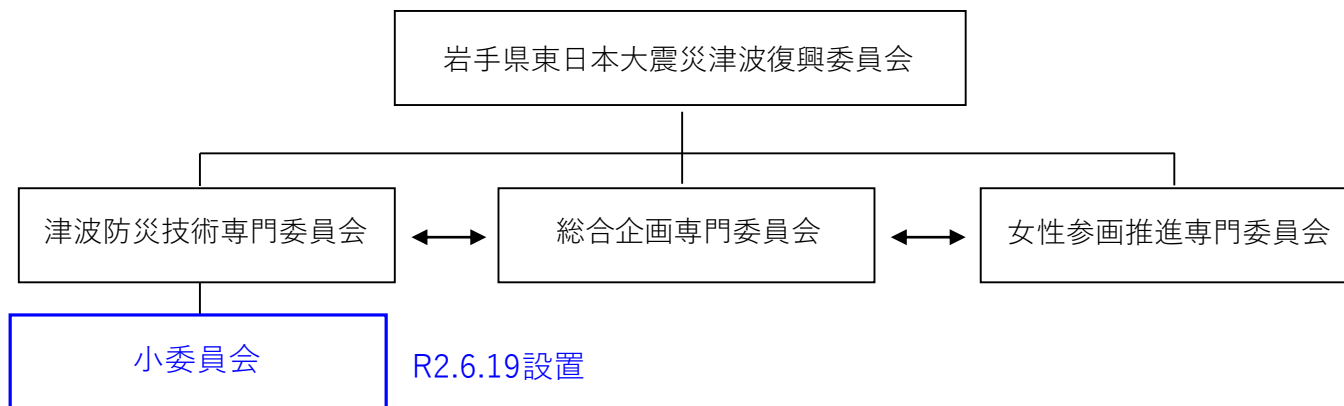
最大クラスの津波を想定し、悪条件下を前提に浸水の区域及び水深を設定

1. 津波浸水想定について

1-2 津波浸水想定の設定にあたって

- 国交省・国総研から示されている「**津波浸水想定の設定の手引き**」に基づき進めるととし、技術的、専門的な事項については、「**岩手県津波防災技術専門委員会 小委員会**」で意見を伺いながら進めてきたもの。

(参考) 津波防災地域づくり検討体制



【令和2年度に検討着手した理由】

- ・ 内閣府で日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの地震津波を検討中であったこと。
- ・ 岩手県では、これまで、震災後の復興まちづくりを進めてきたところであり、大規模な土地の改変や防潮堤整備が続いており、地形データなどの計算条件が定まらなかったこと。

1. 津波浸水想定について

1-3 「解説書」： 津波対策の考え方 要点

「津波浸水想定」の公表にあたって、周知すべき津波対策の考え方を示した。

東日本大震災による甚大な津波被害を受けて、内閣府中央防災会議専門調査会により、新たな津波対策の考え方として、以下に示す二つのレベルの津波を想定する必要がある。

【L1津波】

防潮堤など構造物によって津波の内陸への浸入を防ぐ海岸保全施設等の建設を行う上で想定する「比較的頻度の高い津波」。

【L2津波】

住民避難を柱とした総合的防災対策を構築する上で想定する「最大クラスの津波」。

- 岩手県では、東日本大震災後の平成23年度に「L1津波」に対する津波対策として、沿岸における海岸堤防等の高さの設定について検討を行なった。
- 今回は、「L2津波」に対して総合的防災対策を構築する際の基礎となる「津波浸水想定」について検討した。
- この「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。

1. 津波浸水想定について

1-4「解説書」：留意事項 要点

「津波浸水想定」を公表するにあたり、周知すべき**主な留意事項**を示したもの。

- 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下（地震が満潮時に発生し、防潮堤等の構造物は地震発生と同時に沈下または「構造物がない状態」とし、地震に耐えた構造物も津波が越流し始めた時点で「構造物がない状態」）において発生し、その時に想定される浸水域と浸水深を表したものであること。
- 最大クラスの津波は、「発生頻度は極めて低いものの、甚大な被害をもたらす津波」であり、数百年から千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低い、これよりも大きな津波が発生する可能性もあること。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、「何としても人命を守る」ための避難を中心とした津波防災地域づくりを進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないこと。
- 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあること。
- 浸水域や浸水深は、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる場合があること。

1. 津波浸水想定について

1-5「解説書」： 悪条件下とは

悪条件下とは、各種構造物の地震による沈下や津波越流による破堤を考慮したもの。主な計算条件は以下のとおり。

津波浸水想定図作成の主な計算条件

- ・ 構造物・造成地等の反映条件：現況（令和2年度末時点の整備状況を反映）
- ・ 各種構造物の地震による沈下条件
 - 耐震評価結果がある場合：結果を反映
 - 耐震評価結果がない場合：
 - 盛土構造の堤防・防潮堤等は「地震前の高さの25%まで沈下」
 - コンクリート構造の擁壁・防波堤、水門等は「構造物がない状態」
- ・ 各種構造物の津波の越流に対する状況：津波が越流し始めた時点で「構造物がない状態」
- ・ 計算時の潮位：朔望平均満潮位

1. 津波浸水想定について

1-6 国（内閣府）と県の浸水想定の違い

国（内閣府）

岩 手 県

目
的

特措法※1に関連し、被害想定や防災対策の検討を進めることを目的として、**日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの断層モデル**の検討結果や津波高、浸水域等の推計・公表を行う。

※1 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法

法律※2に基づき、避難対策等の検討に資することを目的として、**日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの断層モデルに加え、過去に県内で発生した最大クラスの津波も対象とした浸水想定**の設定・公表を行う。

※2 津波防災地域づくりに関する法律

推計した震度分布・津波高・浸水域は、広範囲に及ぶ領域での全体を捉えた防災対策の参考とするための推計。

地域の避難対策等の参考とするため、より詳細なメッシュで検討を行うなど、復興まちづくりを踏まえた地形条件による詳細な推計。

日本海溝

千島海溝

※岩手県分は日本海溝が対象（令和2年9月11日公表）

平成29年度（海域は平成16年度）時点の計画条件

（施設完成後と想定）

最小10mメッシュ

日本海溝・千島海溝モデル
浸水域分布（イメージ図）



①断層モデル

②地形データ

③計算メッシュ

④浸水域の
イメージ

日本海溝

千島海溝

+

東北地方
太平洋沖

明治三陸

昭和三陸

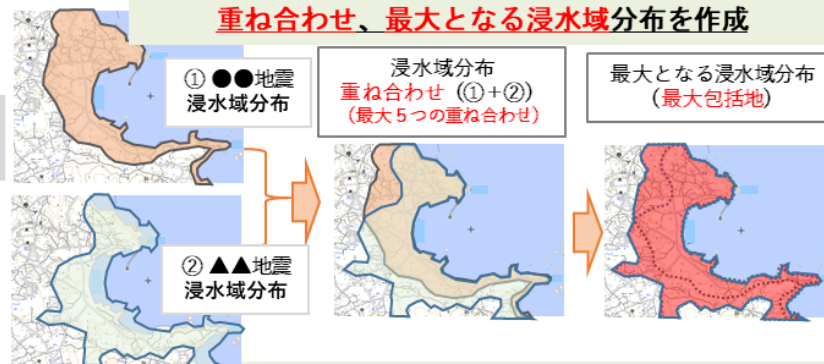
過去に県内で発生した
最大クラスの津波も検討対象に追加

令和2年度末時点の現場条件（現場の進捗状況を反映）

最小5mメッシュ

（9千万メッシュ）

複数の断層モデルでシミュレーションした浸水域を
重ね合わせ、最大となる浸水域分布を作成



24地域海岸ごとに最大クラスの津波となる断層モデルで作成

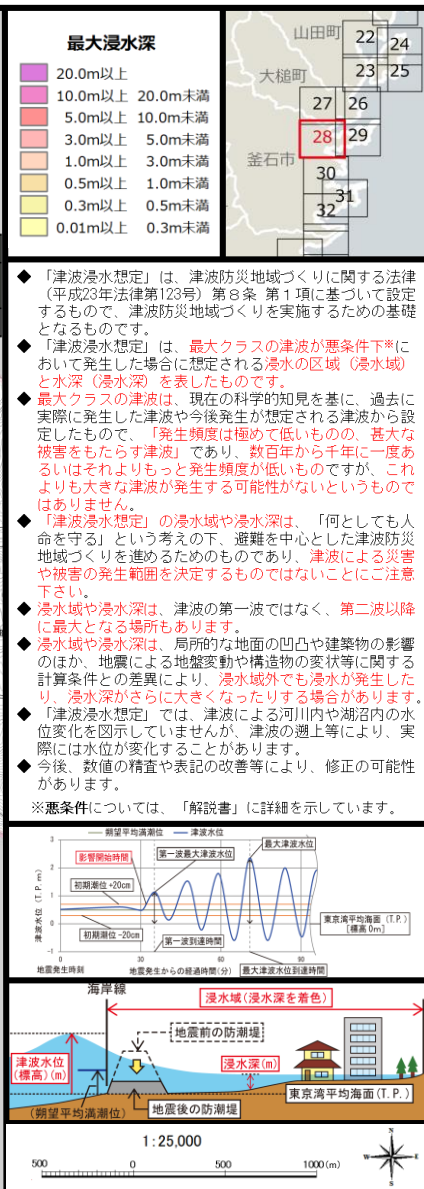
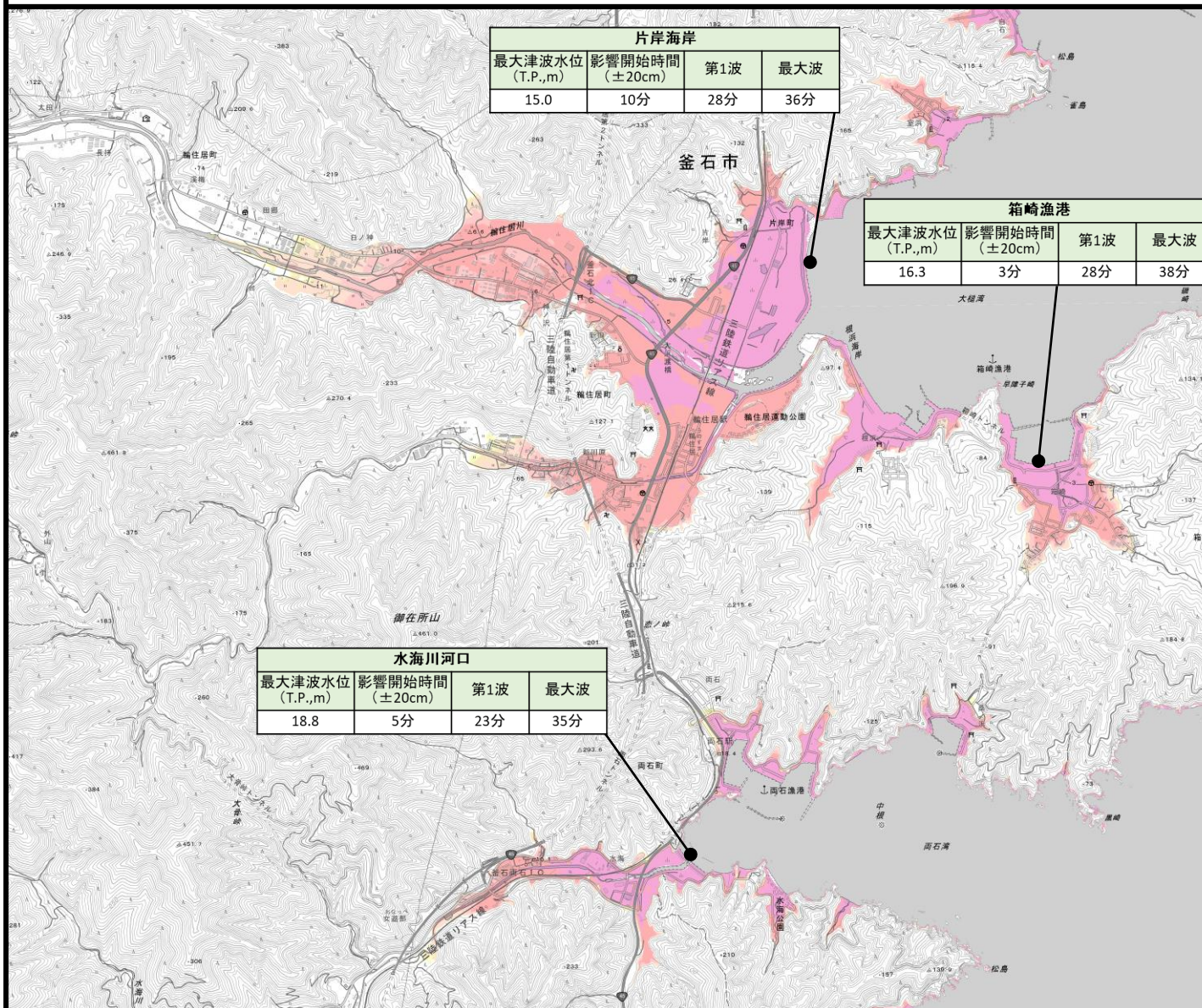
○ 最大クラスの津波を包括した津波浸水想定公表（今回）

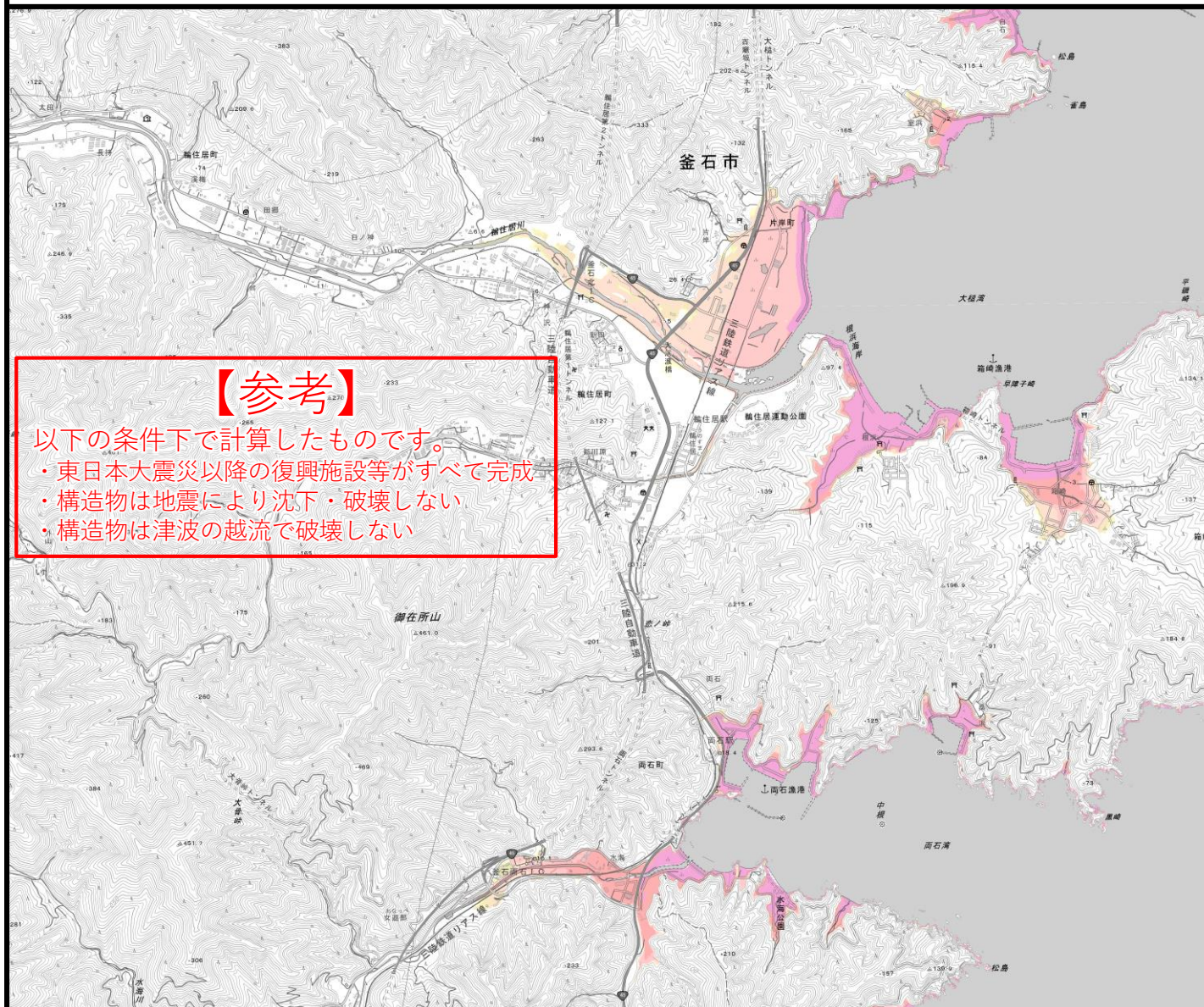
ア
ウ
ト
プ
ット

- 日本海溝・千島海溝沿いで想定される最大クラスの地震・津波による人的・物的・経済的被害の想定
- これら想定される被害を軽減するための防災対策 など

市町村

- ・ 避難対策等の見直し 等
- ・ 津波防災地域づくりを総合的に推進するための計画（推進計画）の作成〔任意〕





【参考】

以下の条件下で計算したものです。

- ・東日本大震災以降の復興施設等がすべて完成
- ・構造物は地震により沈下・破壊しない
- ・構造物は津波の越流で破壊しない

最大浸水深

- 20.0m以上
- 10.0m以上 20.0m未満
- 5.0m以上 10.0m未満
- 3.0m以上 5.0m未満
- 1.0m以上 3.0m未満
- 0.5m以上 1.0m未満
- 0.3m以上 0.5m未満
- 0.01m以上 0.3m未満



◆本資料は、防潮堤等の構造物を津波が越流しても破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。

(注) 実際の現象では、防潮堤等が壊れる場合や壊れない場合があると考えられるが、仮に**全て壊れないとした場合を参考として計算したものです。**

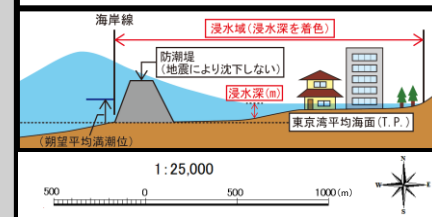
◆避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である防潮堤が破壊する条件での計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- ・最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ・計算時の潮位を**朔望平均満潮位**で計算したものです。

【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- ・造成地や防潮堤等の東日本大震災以降の復興施設のうち、**令和2年度末時点、未完成のものも完成済み**として計算したものです。
- ・耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、**防潮堤等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。**
- ・津波が防潮堤等の**構造物を越流しても、構造物は破壊しないものとして計算したものです。**



片岸地区・室浜地区

破堤あり

釜石市

片岸町

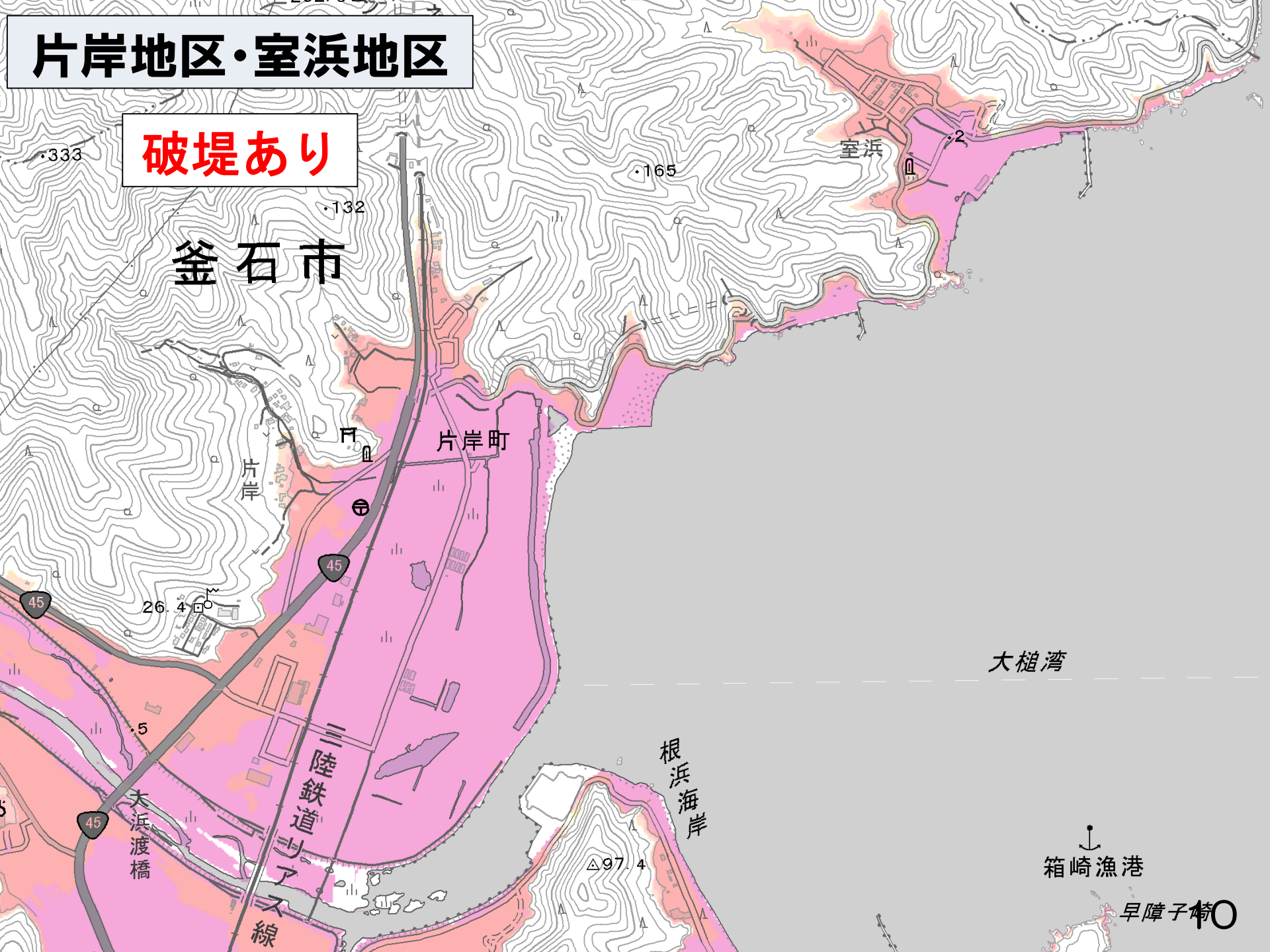
室浜

大槌湾

根浜海岸

箱崎漁港

早障子崎



片岸地区・室浜地区

破堤なし

釜石市

片岸町

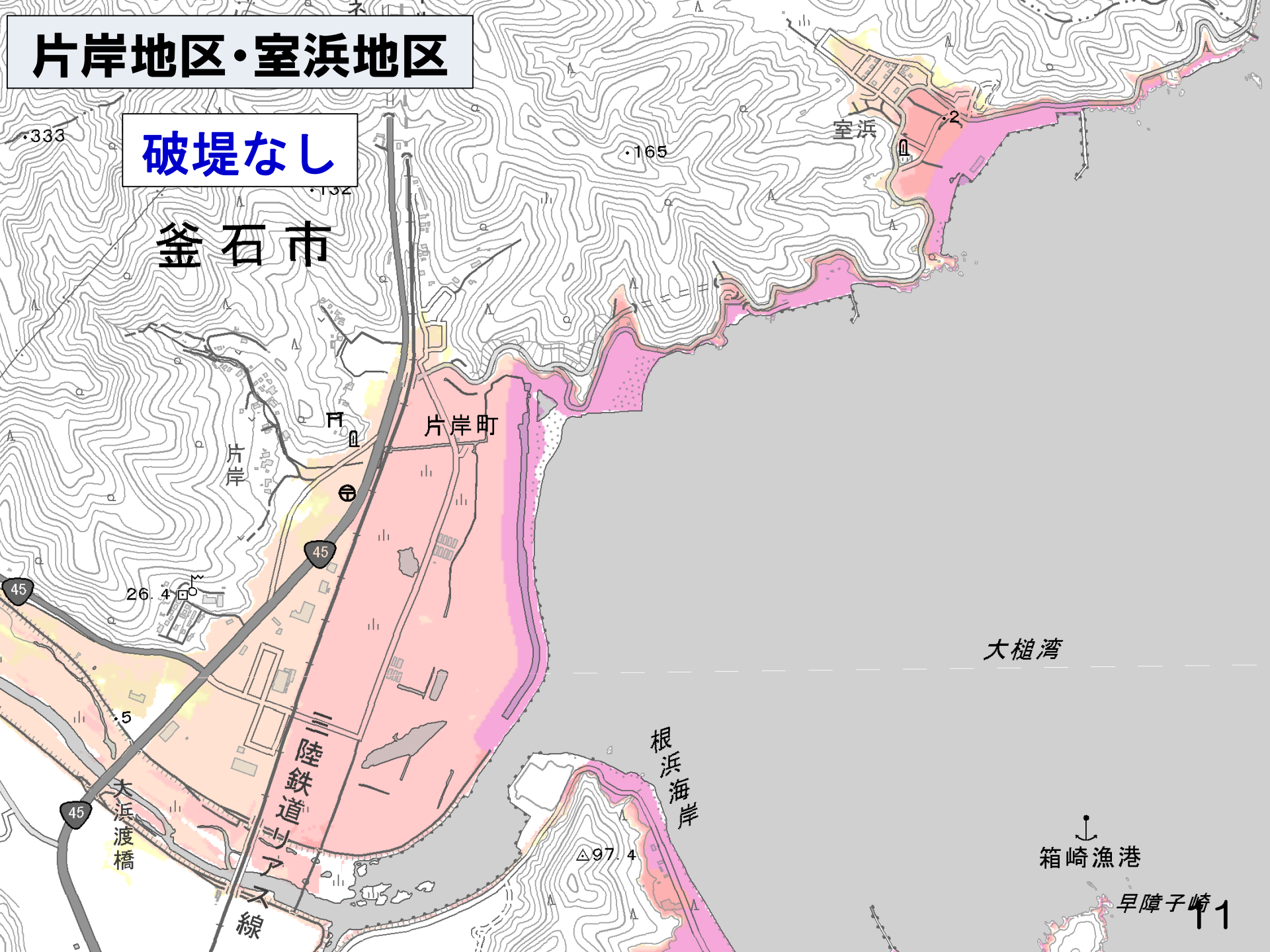
室浜

大槌湾

箱崎漁港

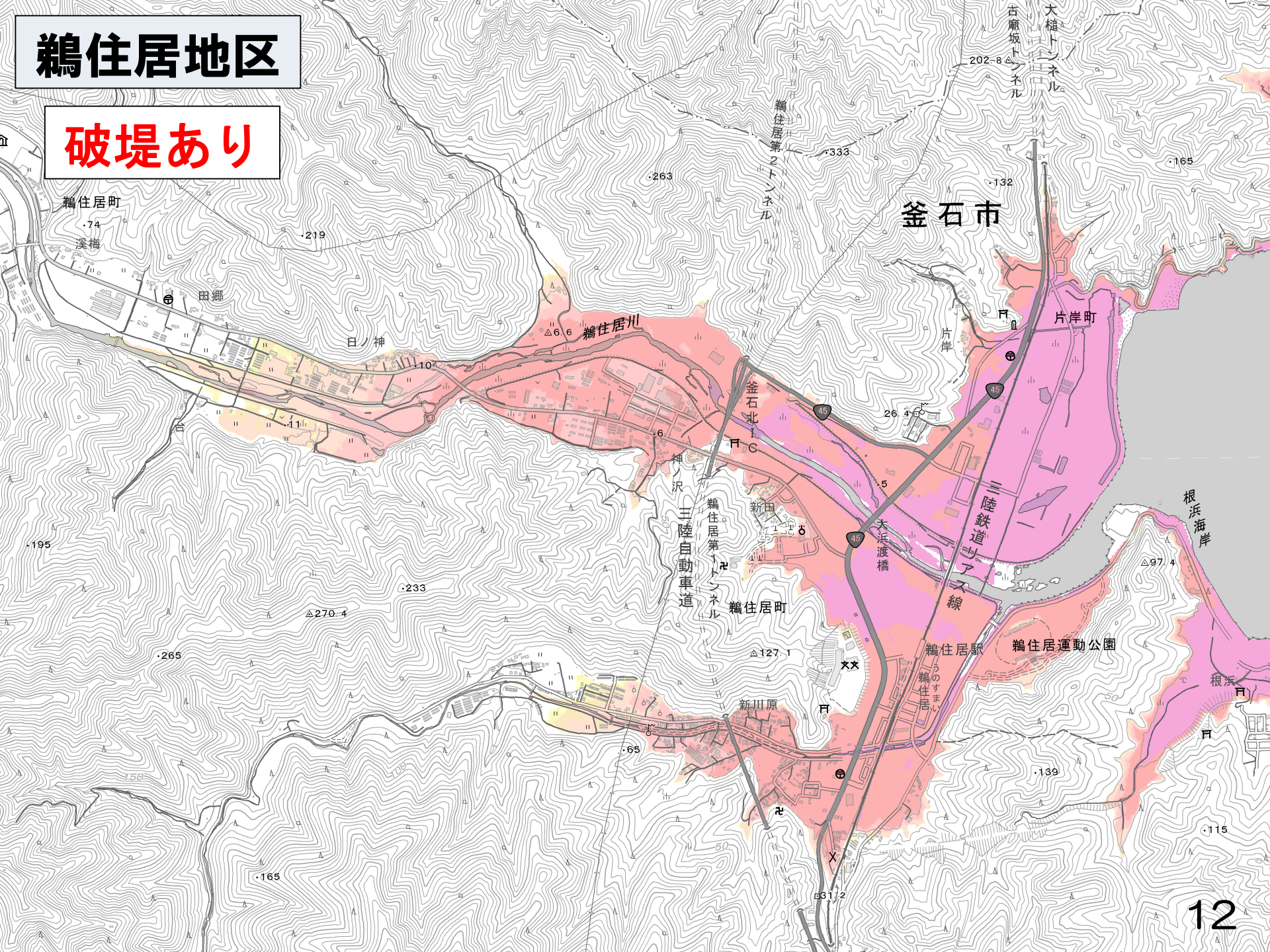
早障子崎

1



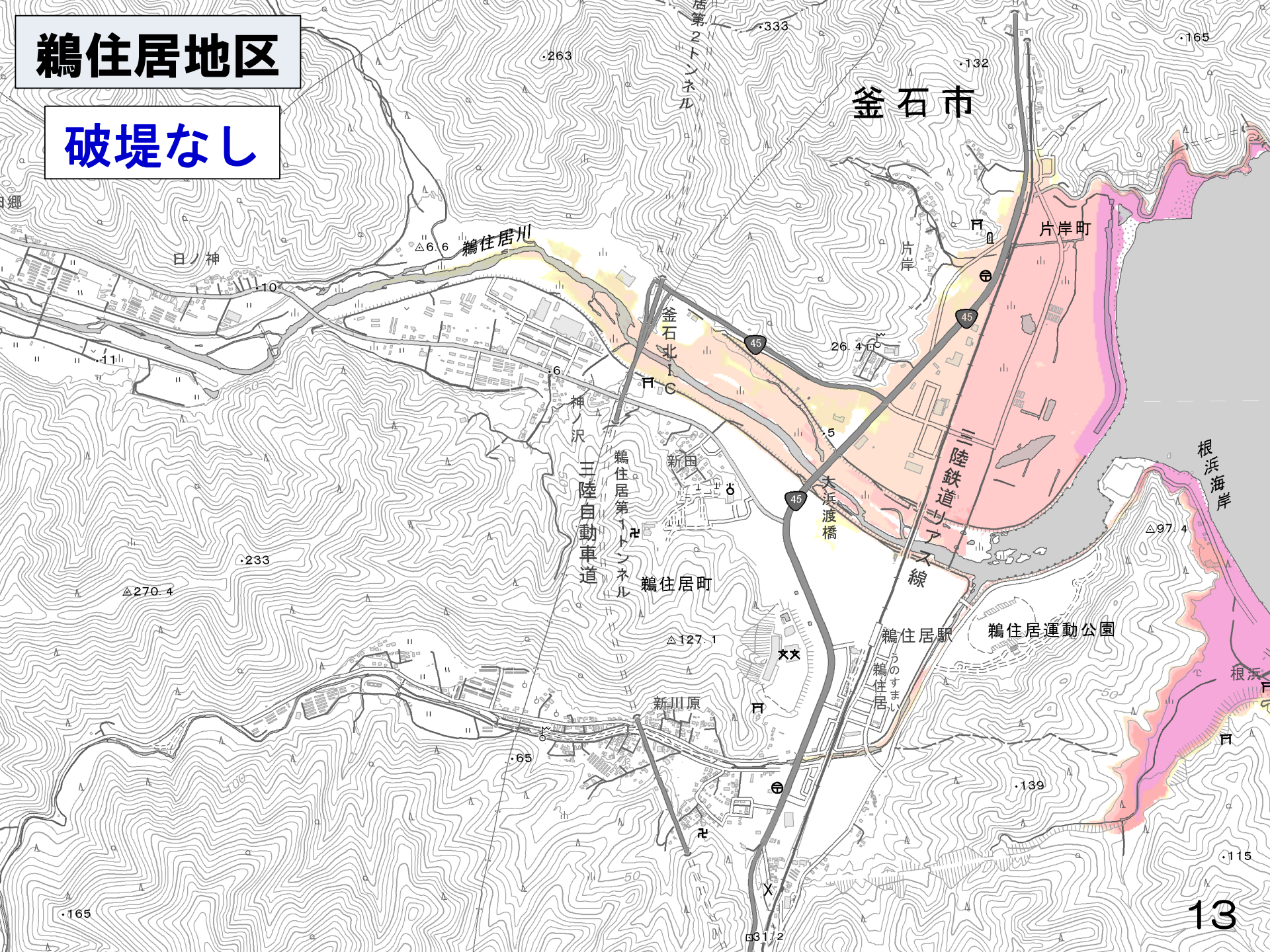
鵜住居地区

破堤あり



鵜住居地区

破堤なし



根浜地区

大槌湾

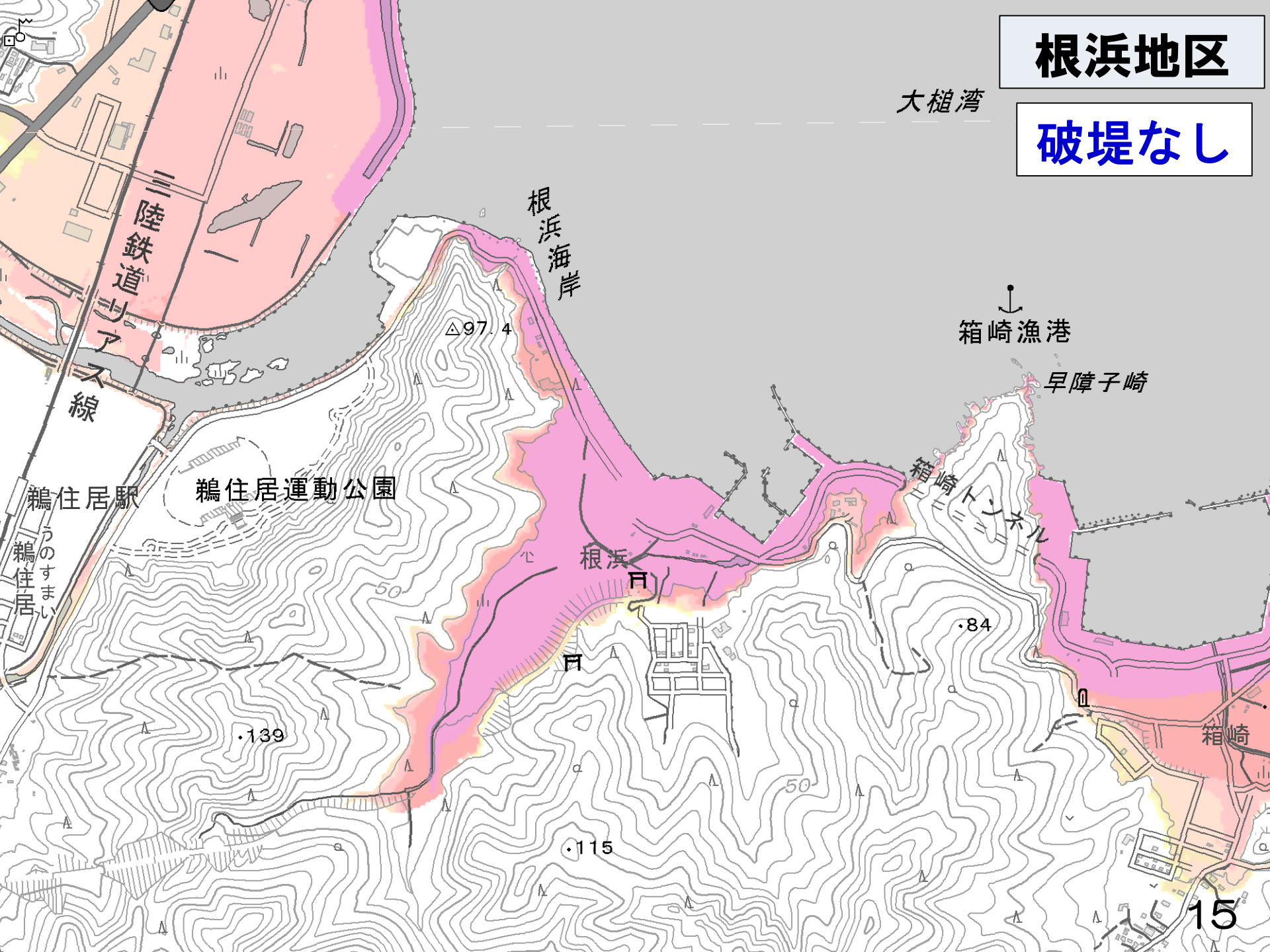
破堤あり



根浜地区

大槌湾

破堤なし



箱崎地区

破堤あり

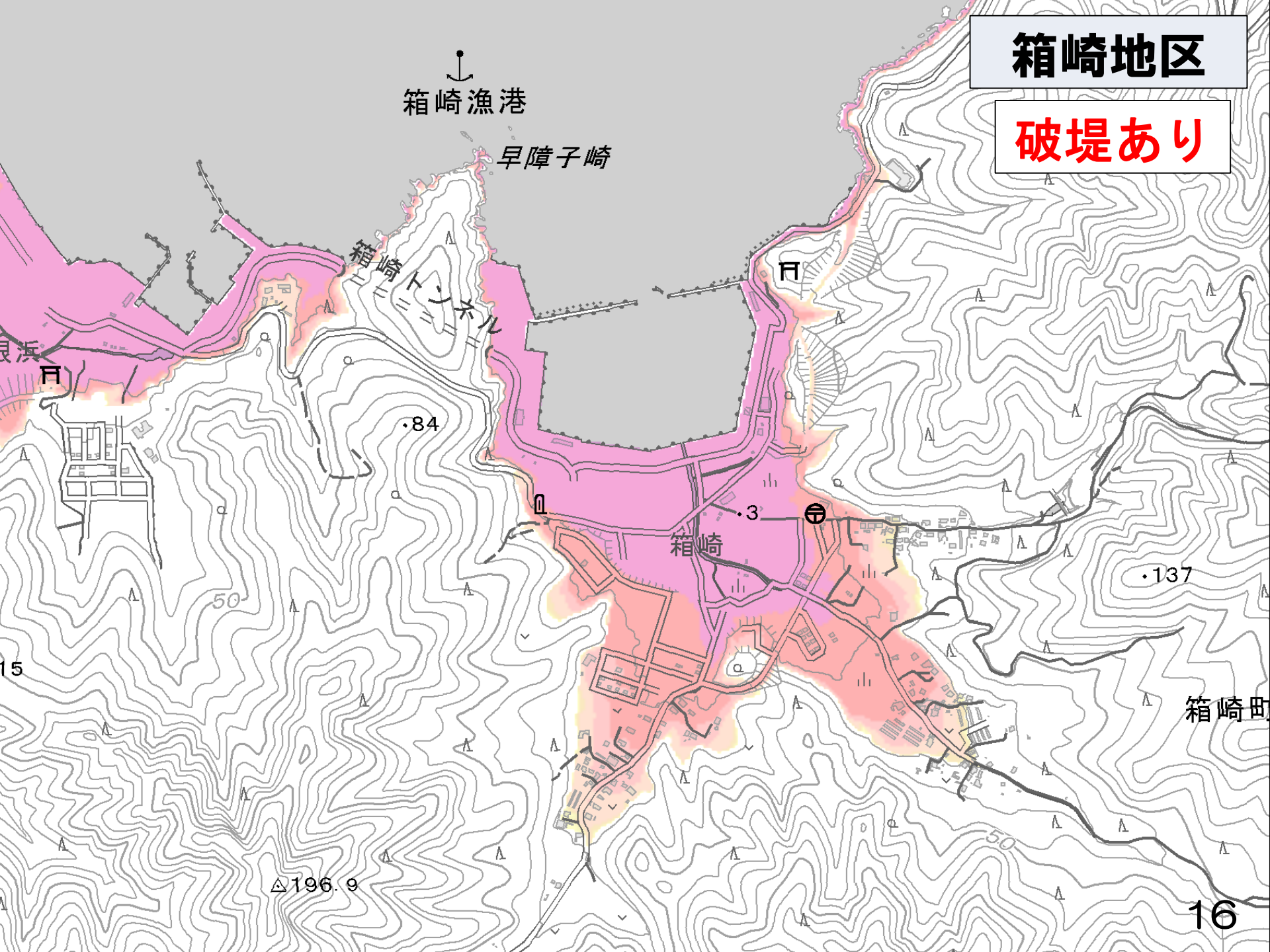
箱崎漁港

早障子崎

箱崎トンネル

箱崎

箱崎町

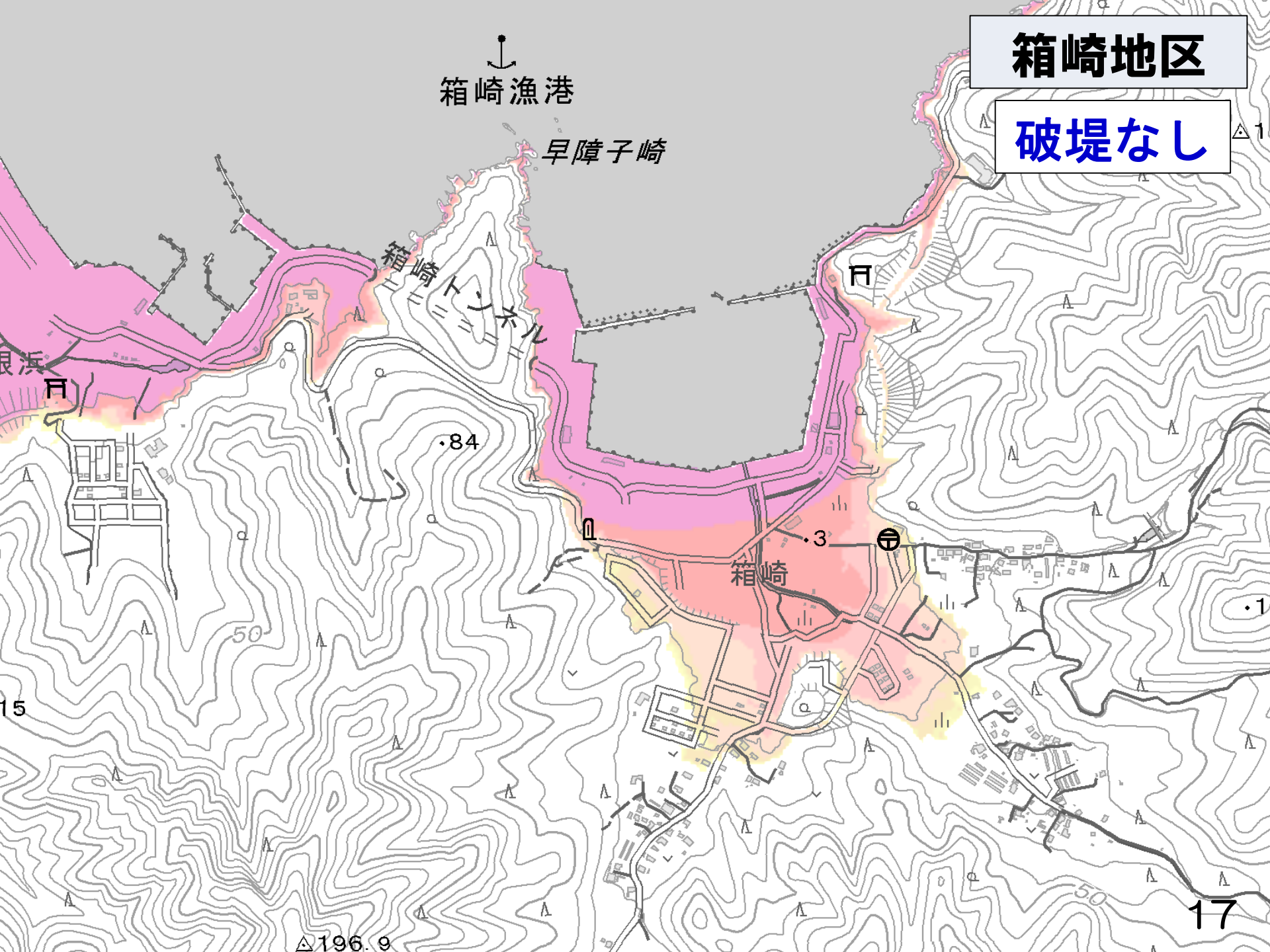


箱崎地区

破堤なし

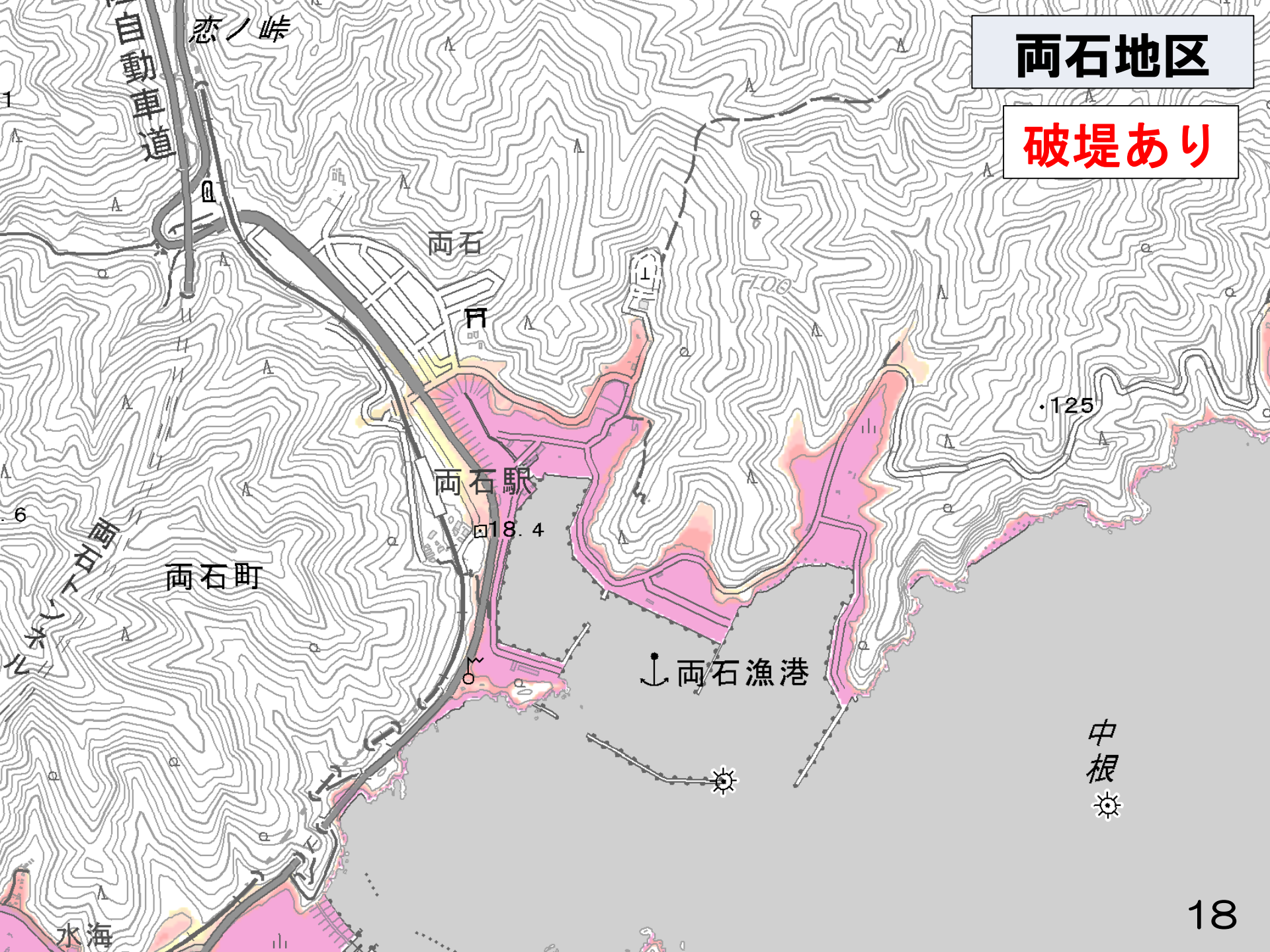
箱崎漁港

早障子崎



両石地区

破堤あり



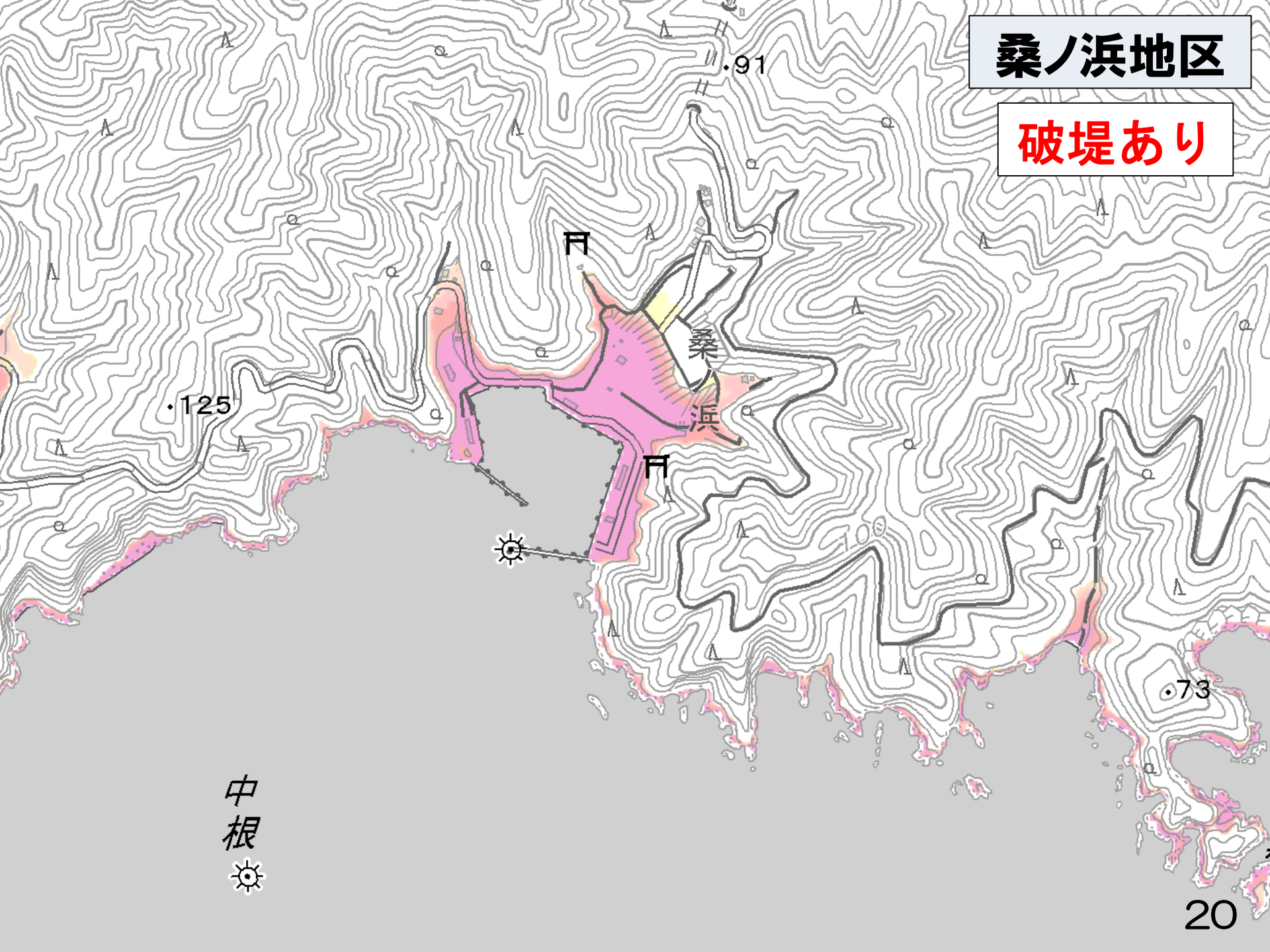
両石地区

破堤なし



桑ノ浜地区

破堤あり

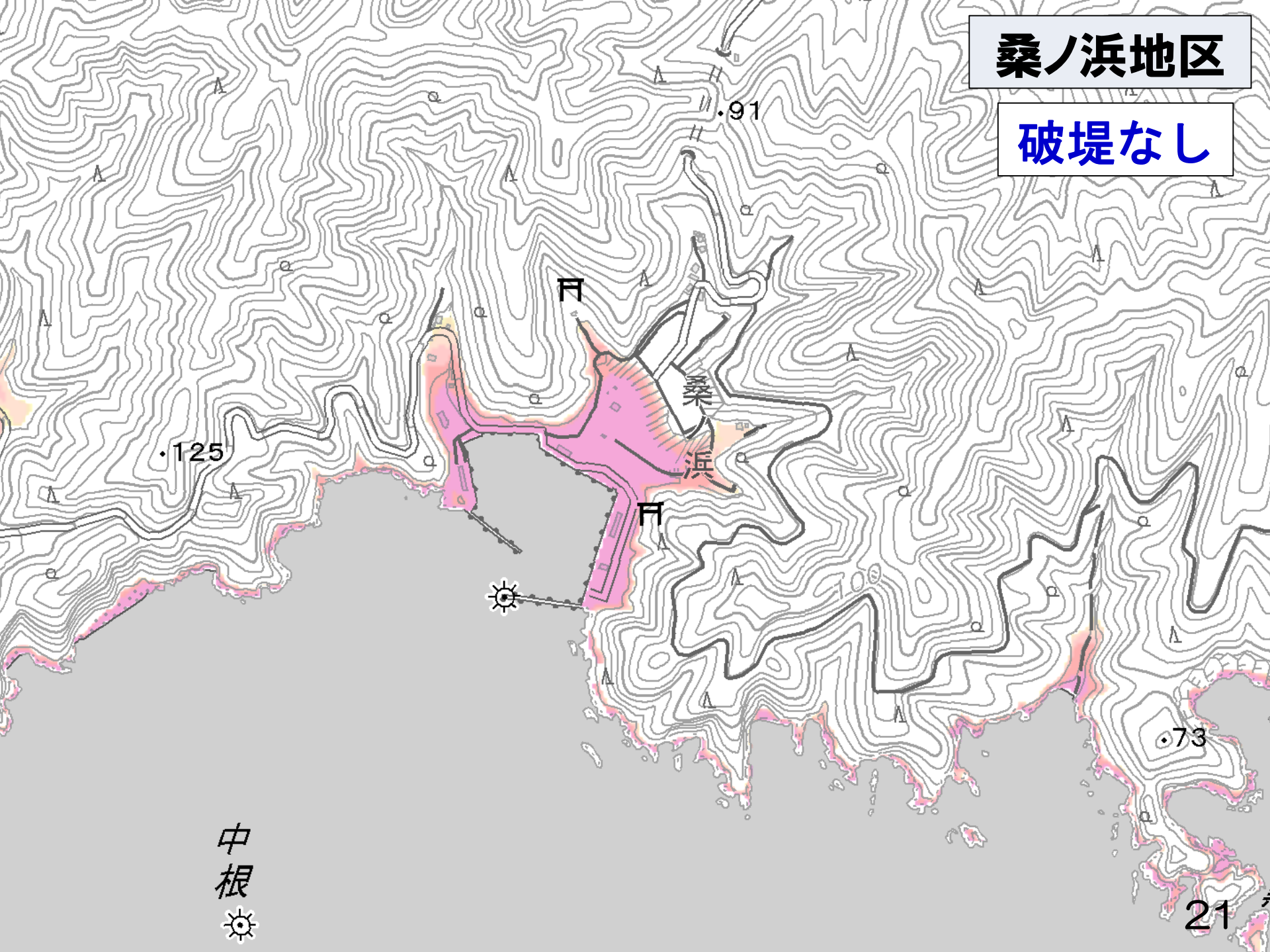


中根



桑ノ浜地区

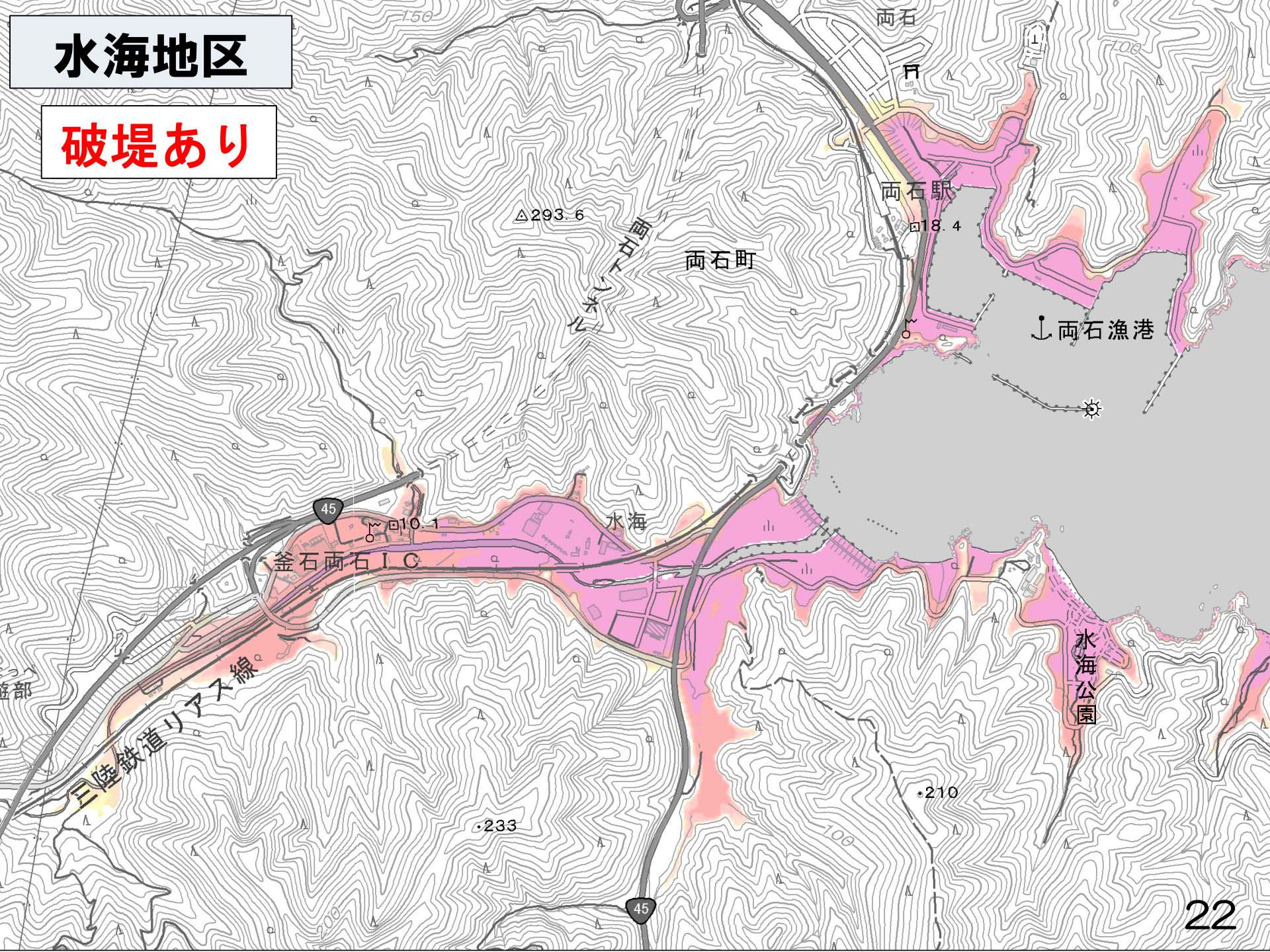
破堤なし



中根
☀

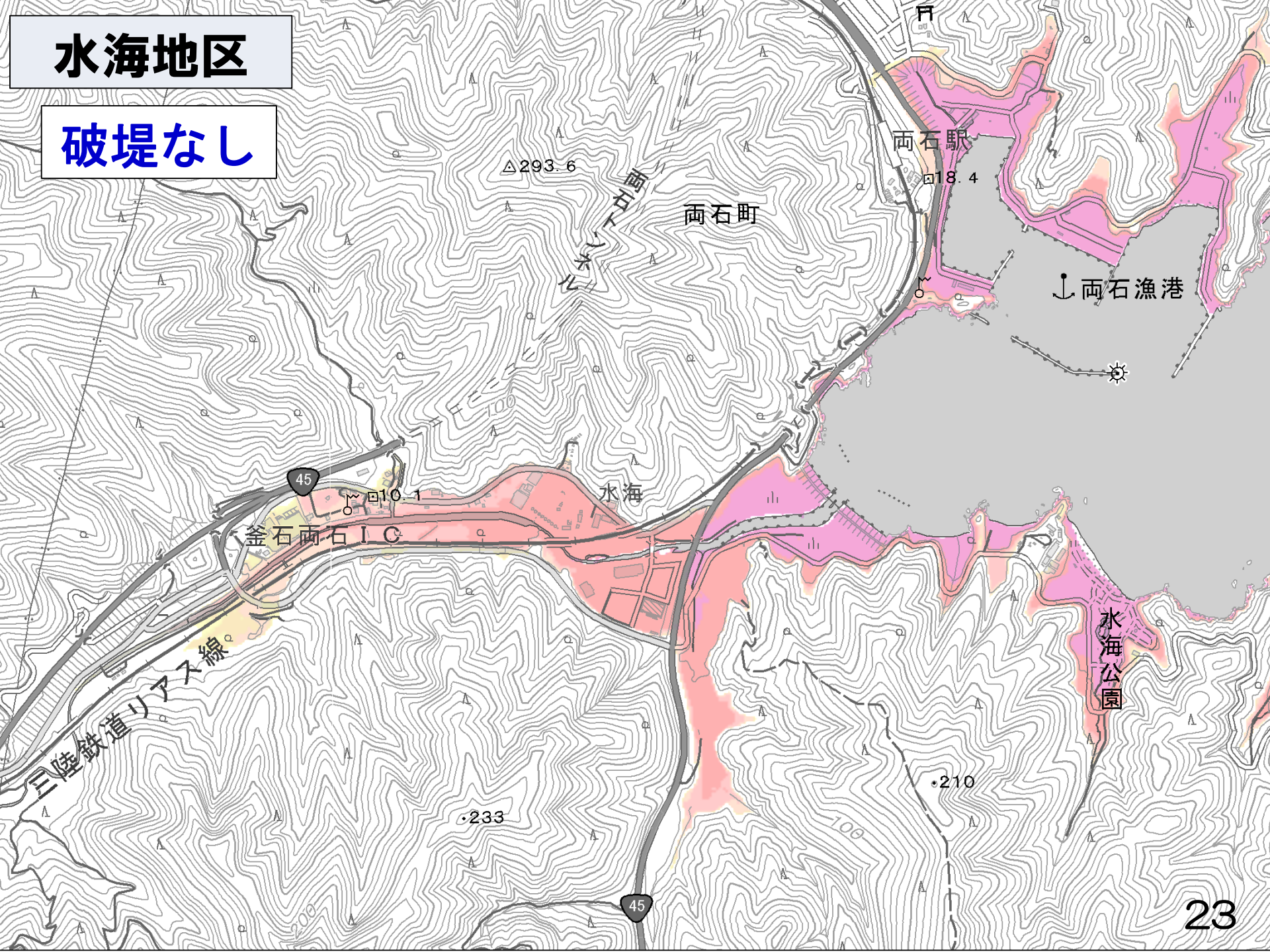
水海地区

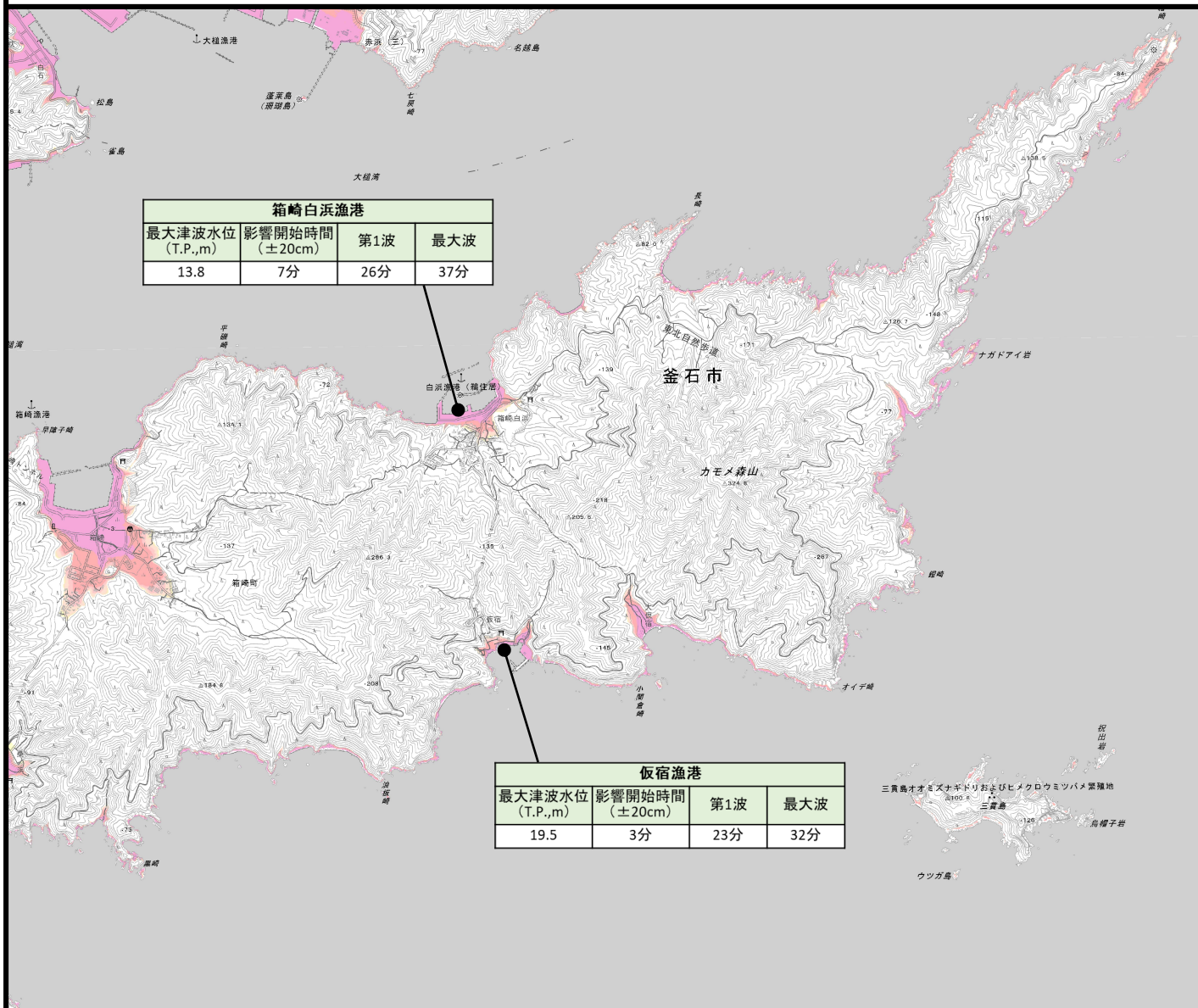
破堤あり



水海地区

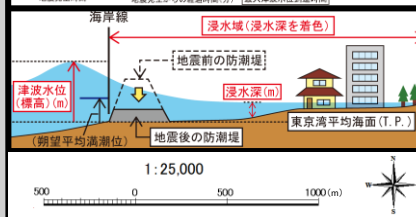
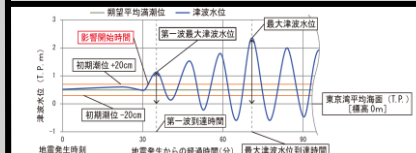
破堤なし

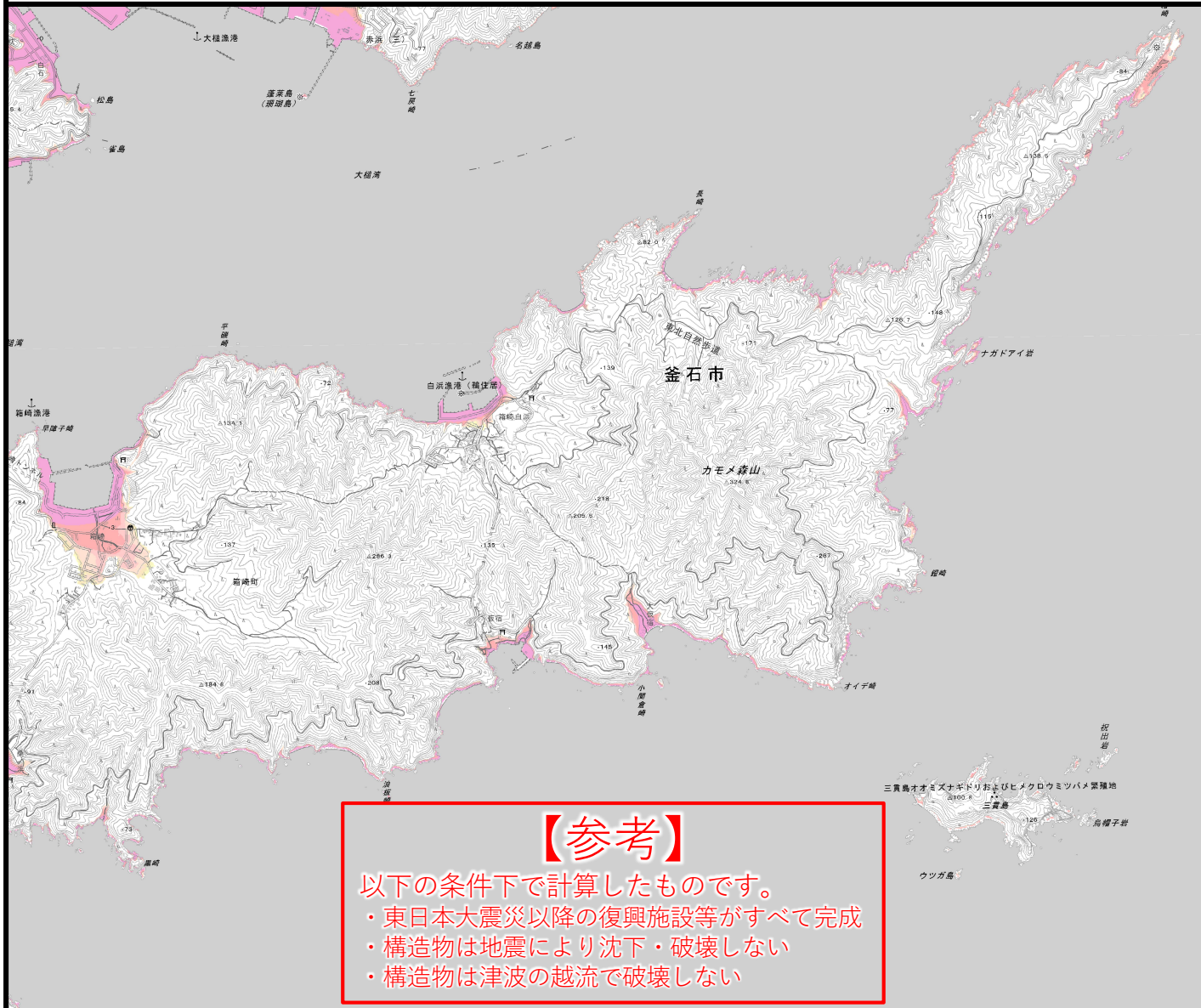




- ◆「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条 第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- ◆「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下*において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ◆最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したもので、「発生頻度は極めて低いものの、甚大な被害をもたらす津波」であり、数百年から千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ◆「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、「何としても人命を守る」という考えの下、避難を中心とした津波防災地域づくりを進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意下さい。
- ◆浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- ◆浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- ◆「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
- ◆今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性がります。

※悪条件については、「解説書」に詳細を示しています。





最大浸水深

20.0m以上
10.0m以上 20.0m未満
5.0m以上 10.0m未満
3.0m以上 5.0m未満
1.0m以上 3.0m未満
0.5m以上 1.0m未満
0.3m以上 0.5m未満
0.01m以上 0.3m未満



◆本資料は、防潮堤等の構造物を津波が越流しても破堤しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
 (注) 実際の現象では、防潮堤等が壊れる場合や壊れない場合があると考えられるが、仮に**全て壊れないとした場合を参考として計算したものです。**

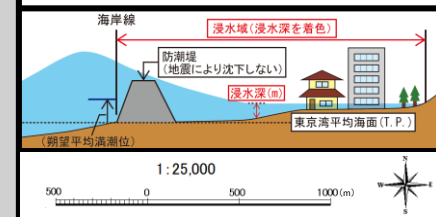
◆避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である防潮堤が破壊する条件での計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- ・最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ・計算時の潮位を**朔望平均満潮位**で計算したものです。

【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- ・造成地や防潮堤等の東日本大震災以降の復興施設のうち、**令和2年度末時点、未完成のものも完成済み**として計算したものです。
- ・耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、**防潮堤等の構造物は、地震により沈下・破壊しないもの**として計算したものです。
- ・津波が防潮堤等の**構造物を越流しても、構造物は破壊しないもの**として計算したものです。

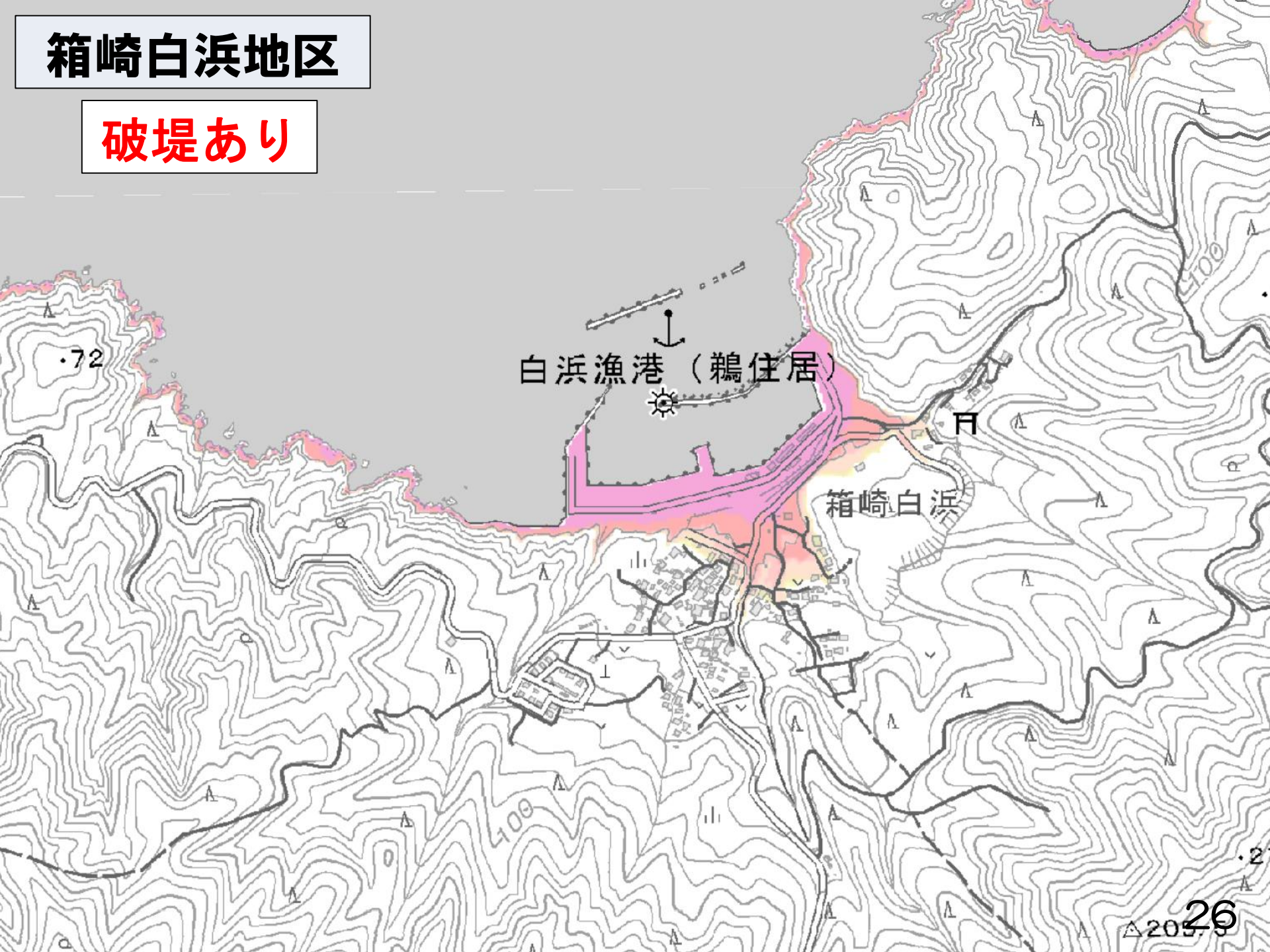


【参考】

- 以下の条件下で計算したものです。
- ・東日本大震災以降の復興施設等がすべて完成
 - ・構造物は地震により沈下・破壊しない
 - ・構造物は津波の越流で破壊しない

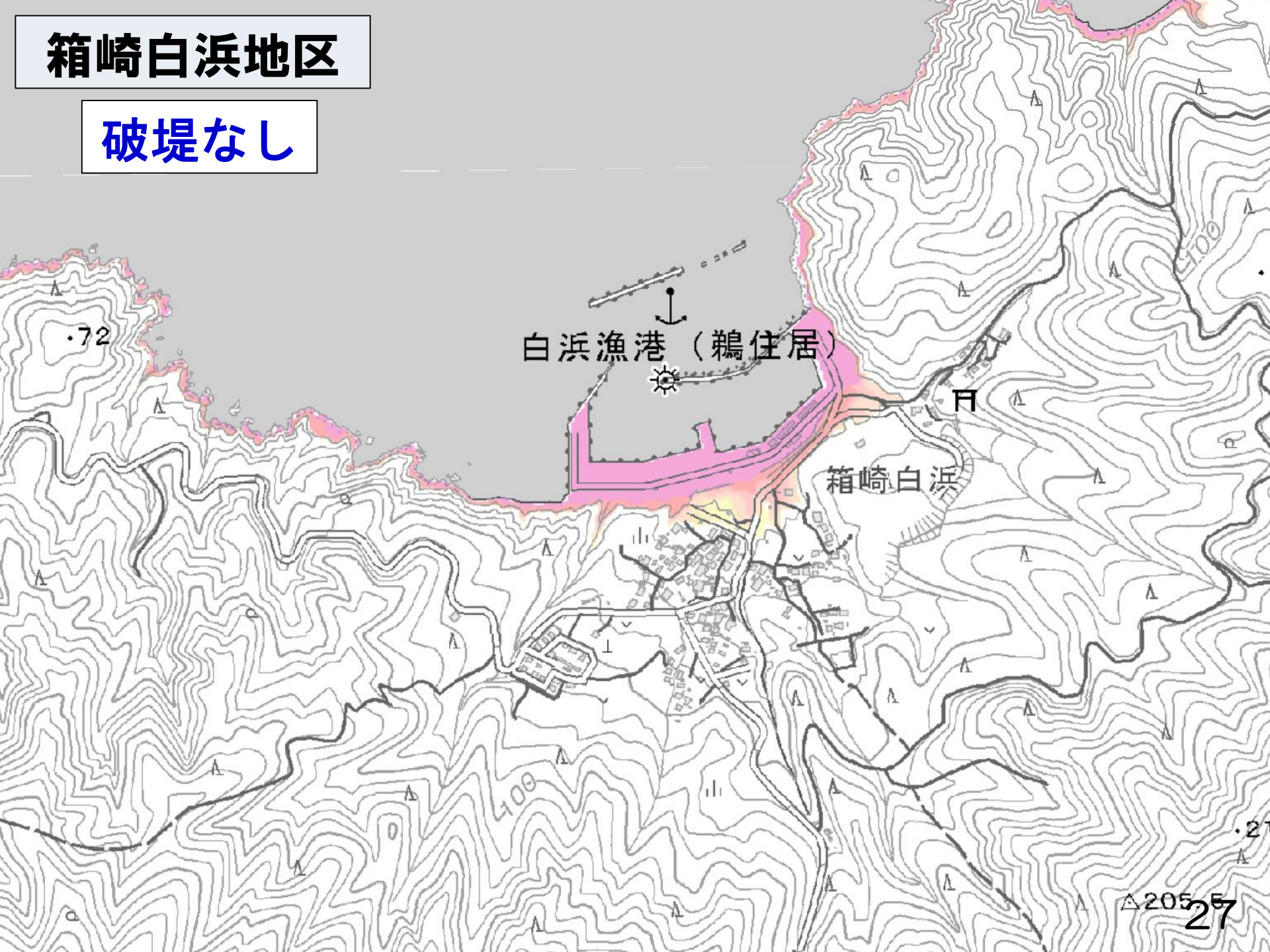
箱崎白浜地区

破堤あり



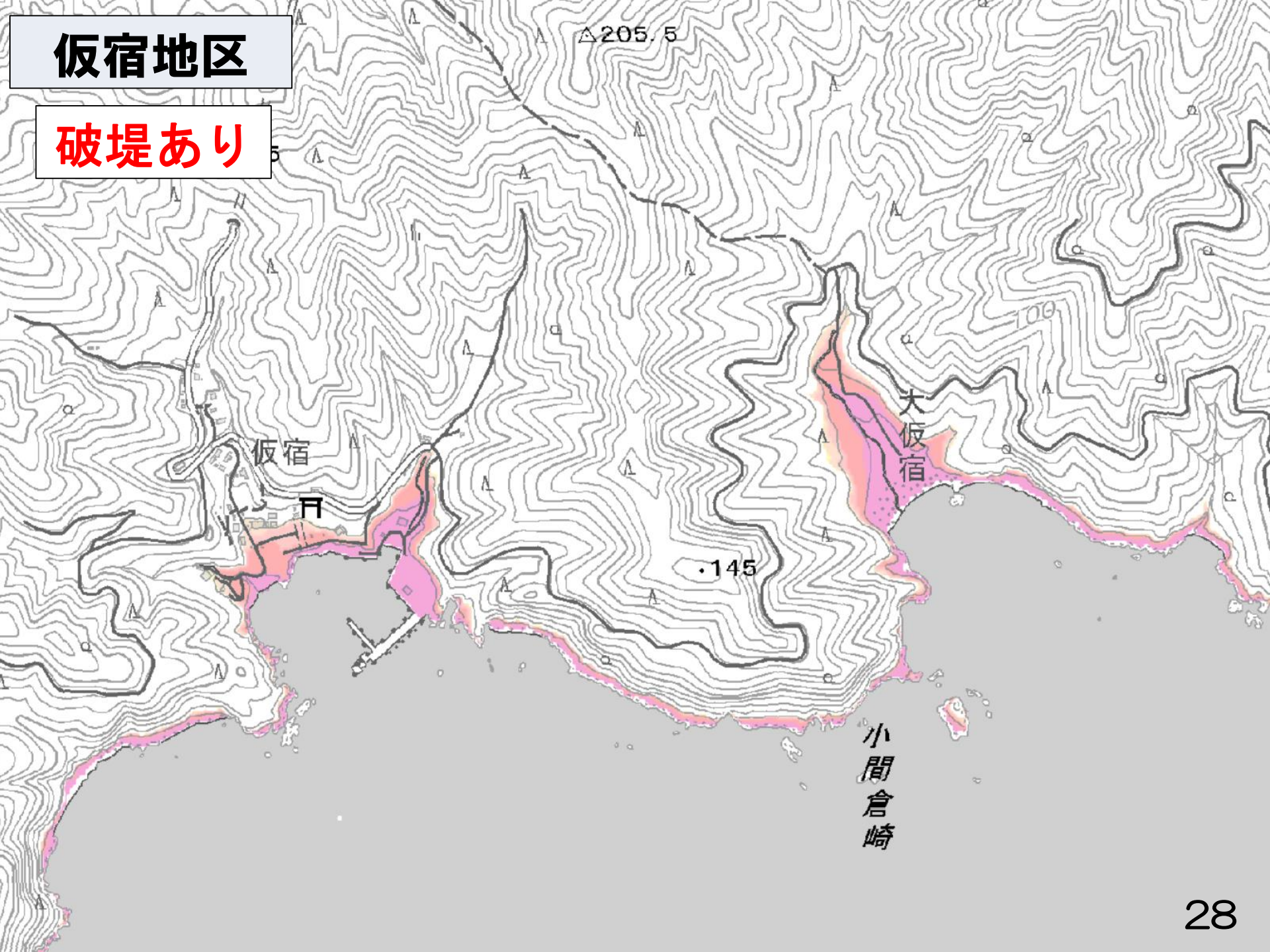
箱崎白浜地区

破堤なし



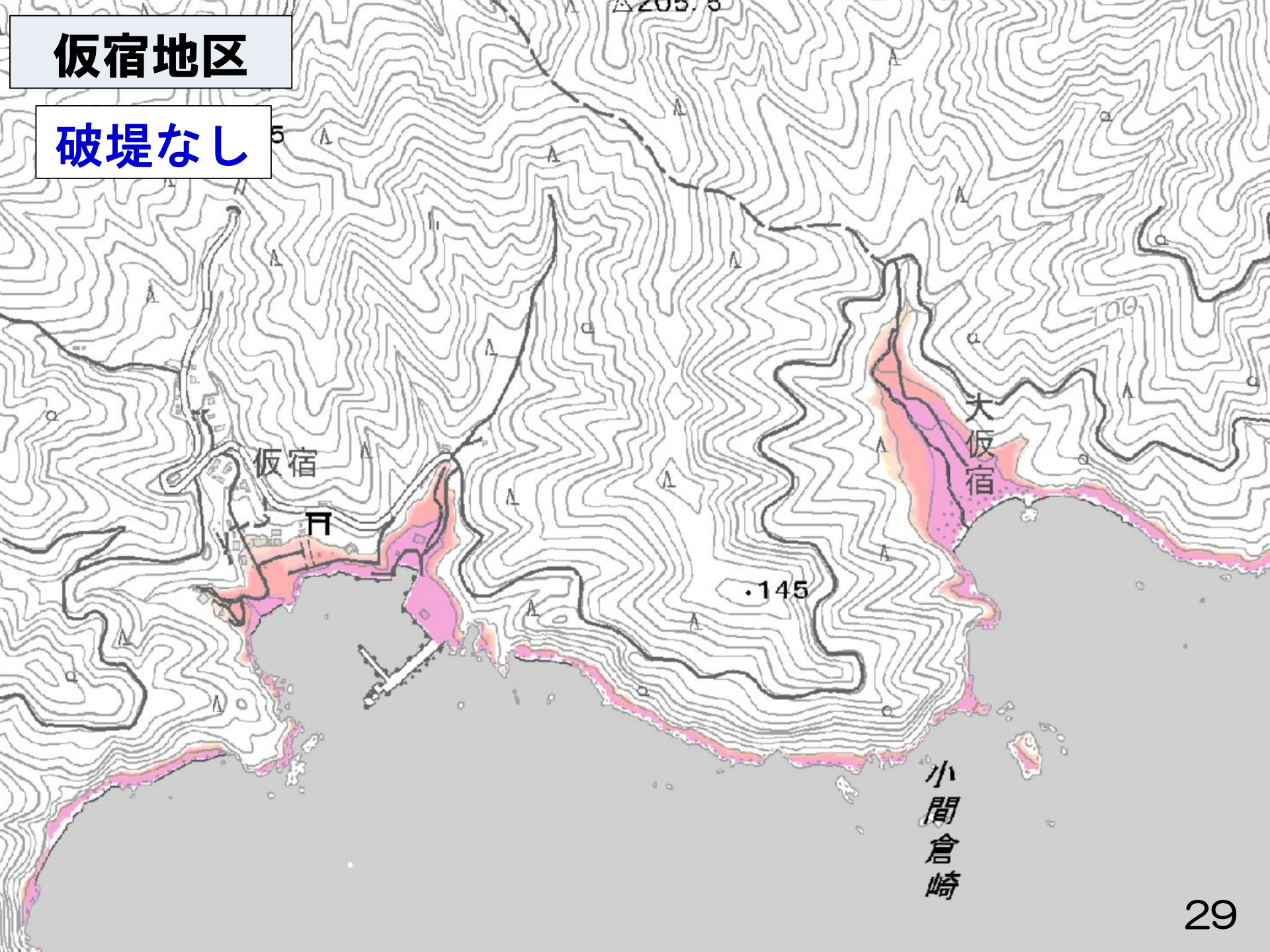
仮宿地区

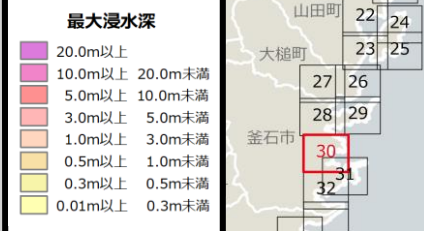
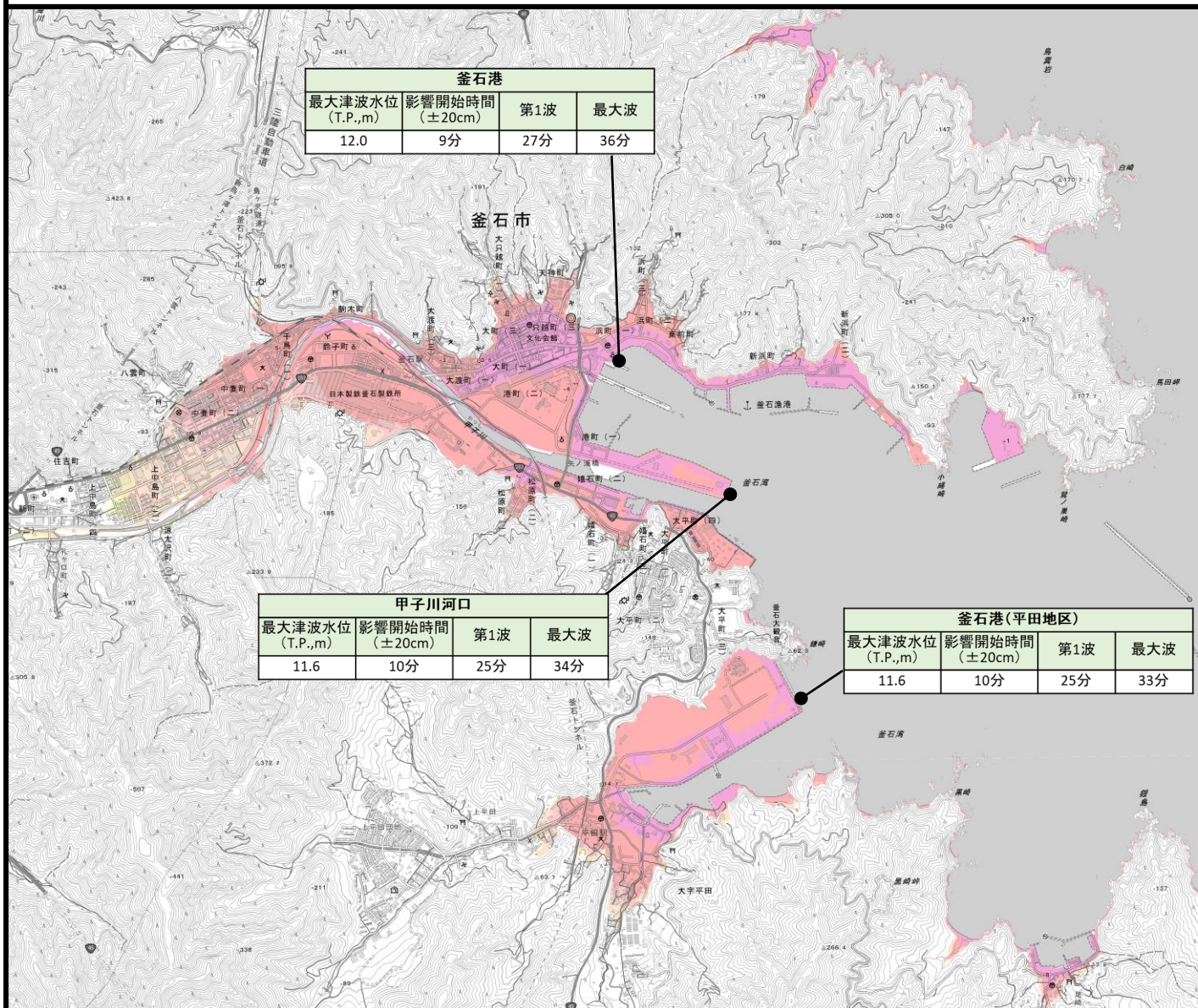
破堤あり



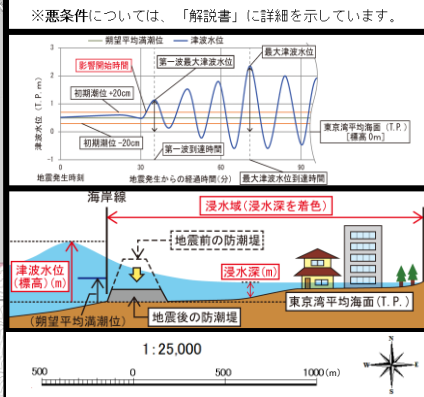
仮宿地区

破堤なし





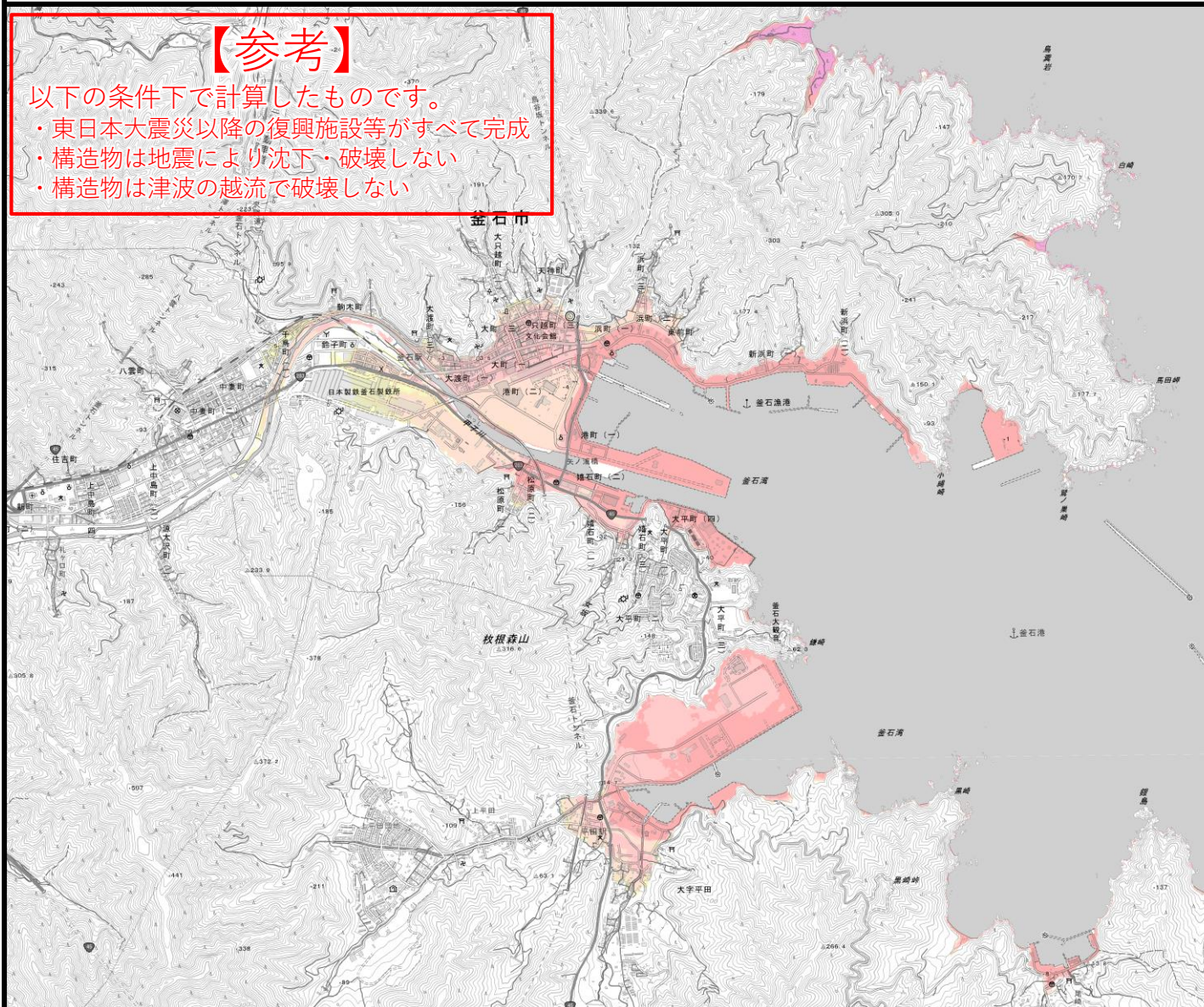
- ◆「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条 第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- ◆「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下*において発生した場合に想定される「浸水の区域（浸水域）」と水深（浸水深）を表したものです。
- ◆最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したもので、「発生頻度は極めて低いものの、甚大な被害をもたらす津波」であり、数百年から千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ◆「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、「何としても人命を守る」という考えの下、避難を中心とした津波防災地域づくりを進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことに注意下さい。
- ◆浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- ◆浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- ◆「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上により、実際には水位が変化することがあります。
- ◆今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性ががあります。



【参考】

以下の条件下で計算したものです。

- ・東日本大震災以降の復興施設等がすべて完成
- ・構造物は地震により沈下・破壊しない
- ・構造物は津波の越流で破壊しない



最大浸水深



◆本資料は、防潮堤等の構造物を津波が越流しても破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
(注) 実際の現象では、防潮堤等が壊れる場合や壊れない場合があると考えられるが、仮に**全て壊れないとした場合を参考として計算したものです。**

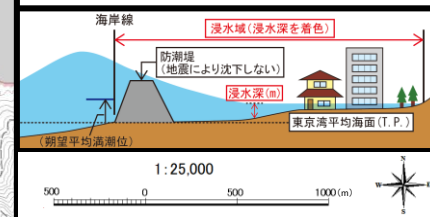
◆避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である防潮堤が破壊する条件での計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- ・最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ・計算時の潮位を**朔望平均満潮位**で計算したものです。

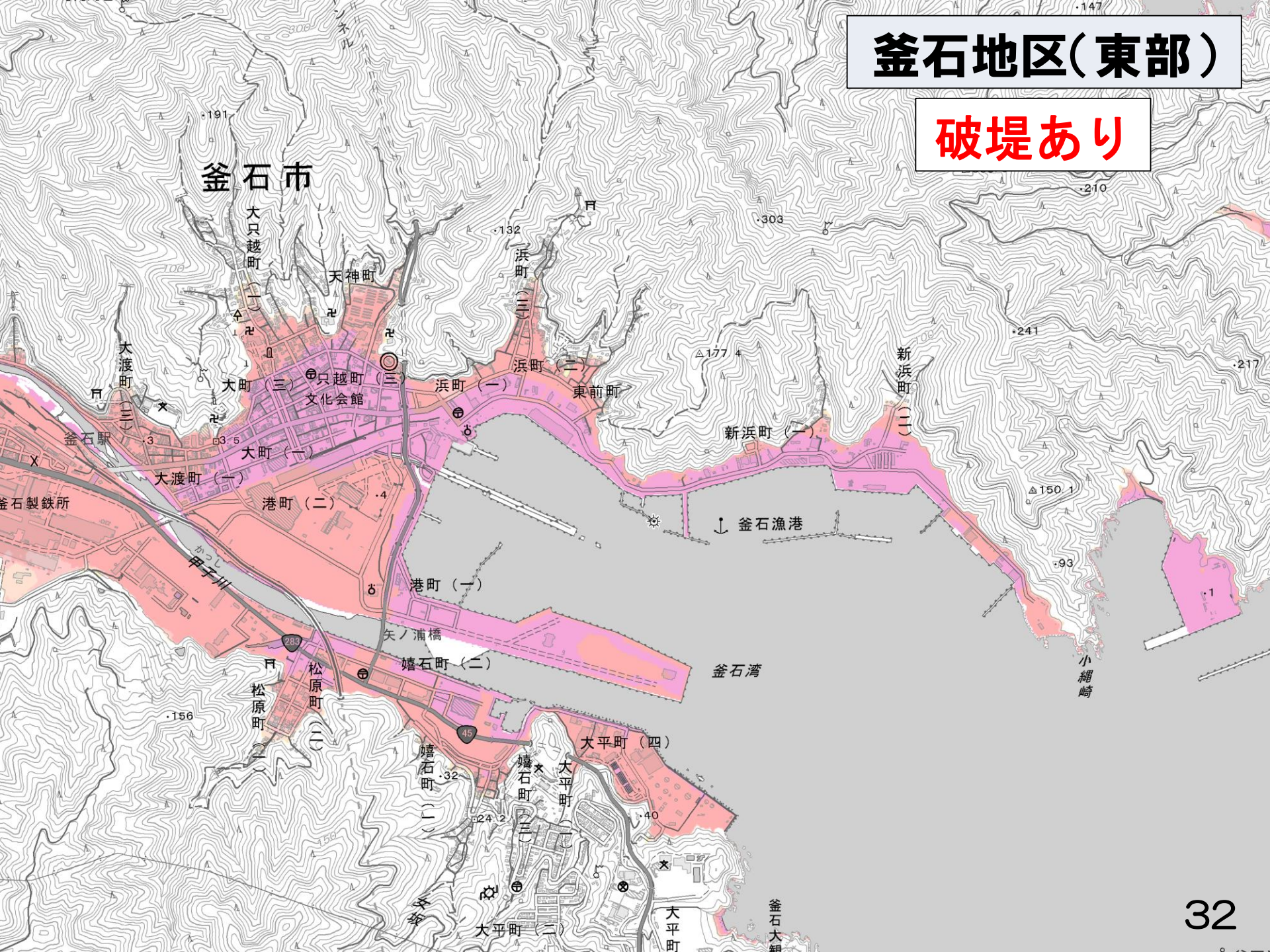
【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- ・造成地や防潮堤等の東日本大震災以降の復興施設のうち、**令和2年度末時点、未完成のものも完成済み**として計算したものです。
- ・耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、**防潮堤等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。**
- ・津波が防潮堤等の**構造物を越流しても、構造物は破壊しないものとして計算したものです。**



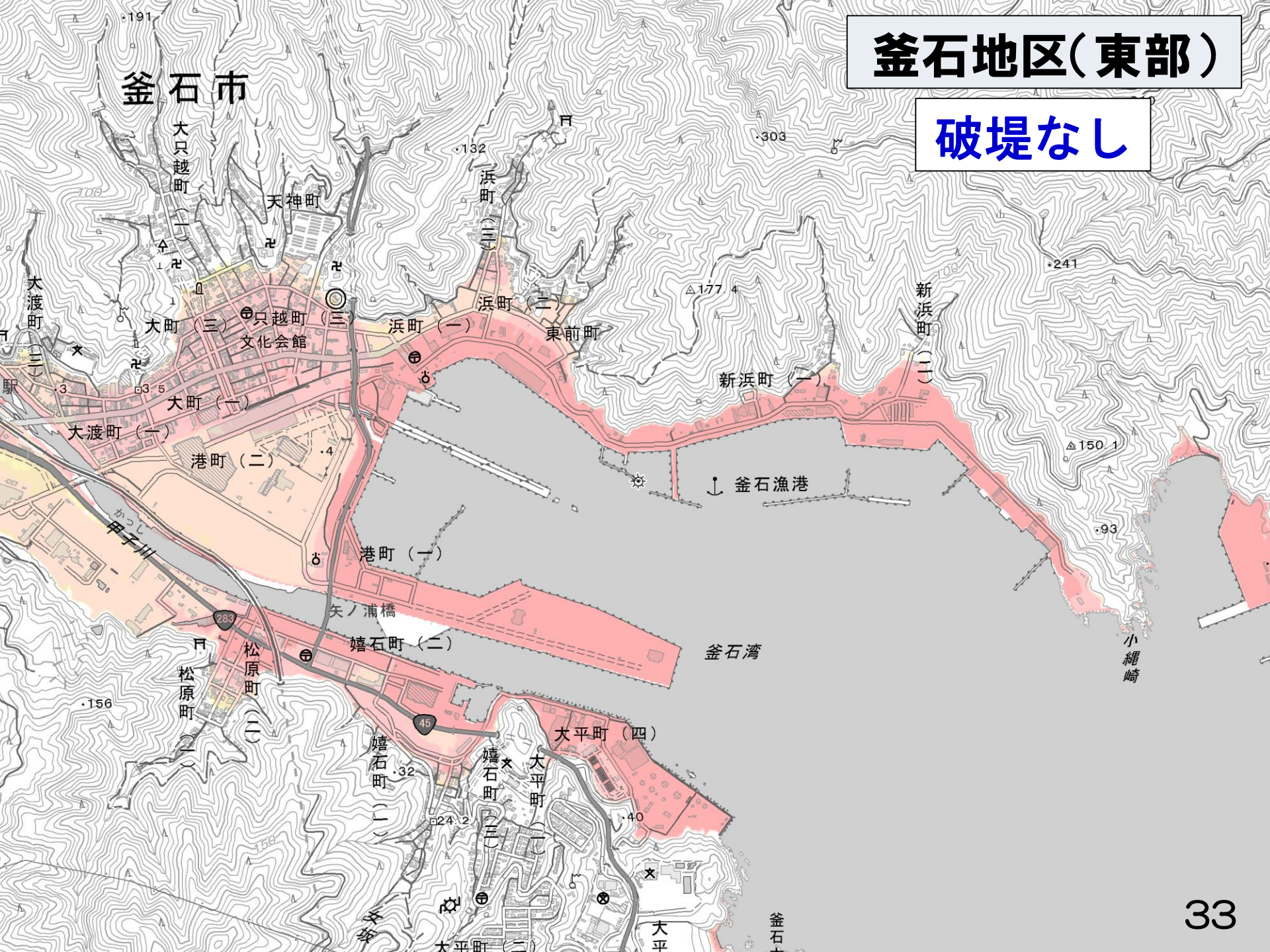
釜石地区(東部)

破堤あり



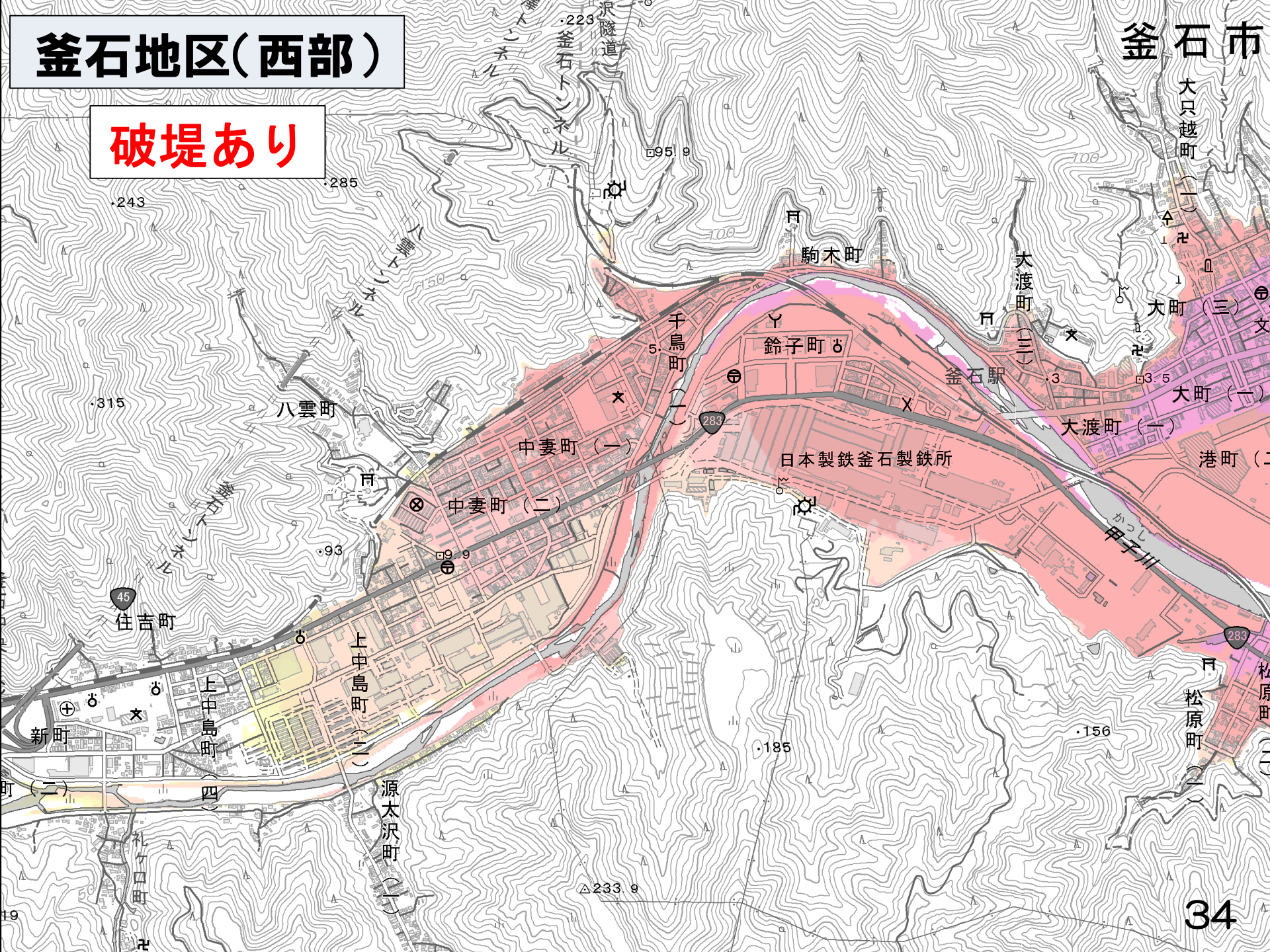
釜石地区(東部)

破堤なし



釜石地区(西部)

破堤あり



釜石市

大只越町

文

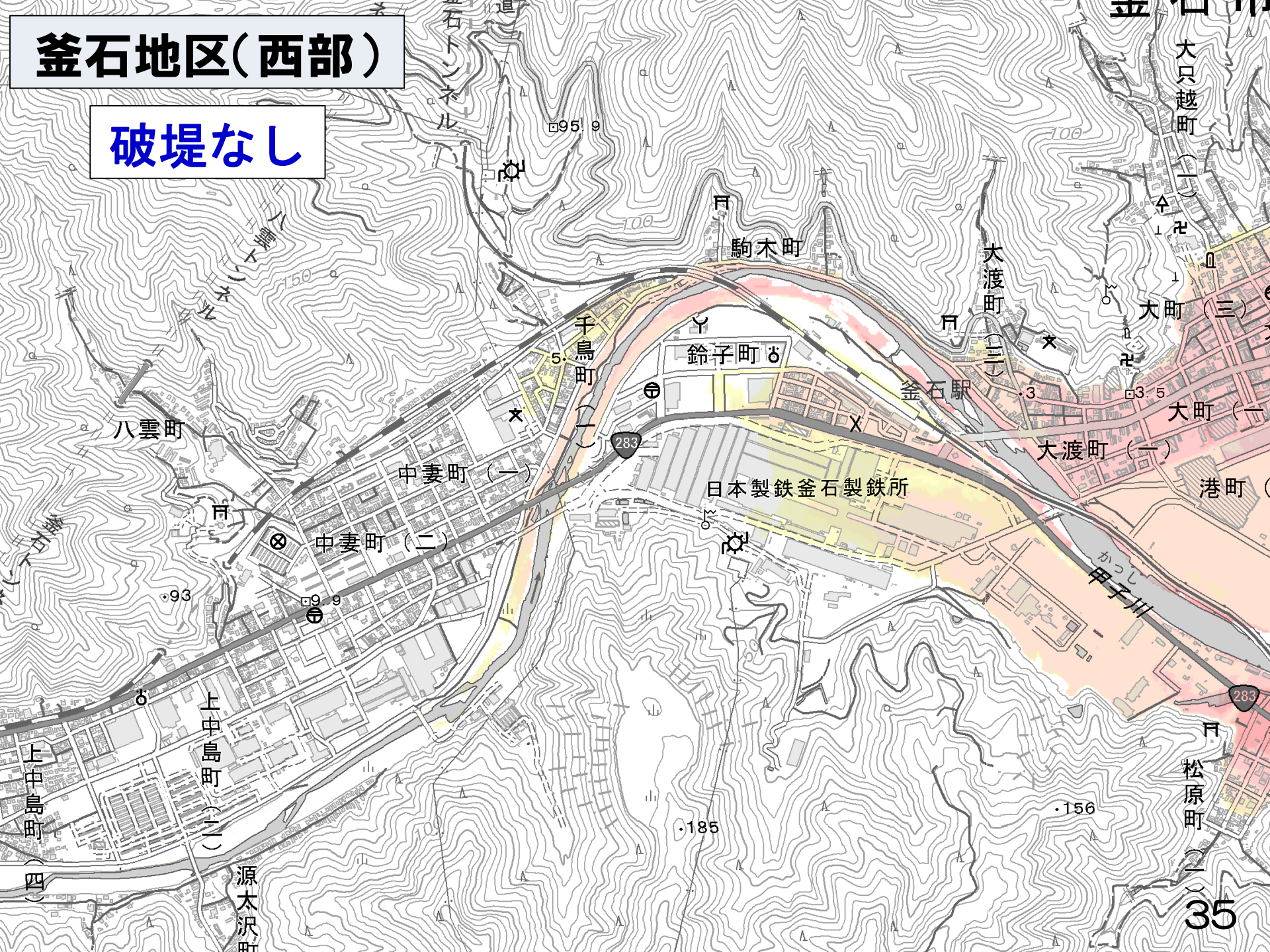
港町

松原町

34

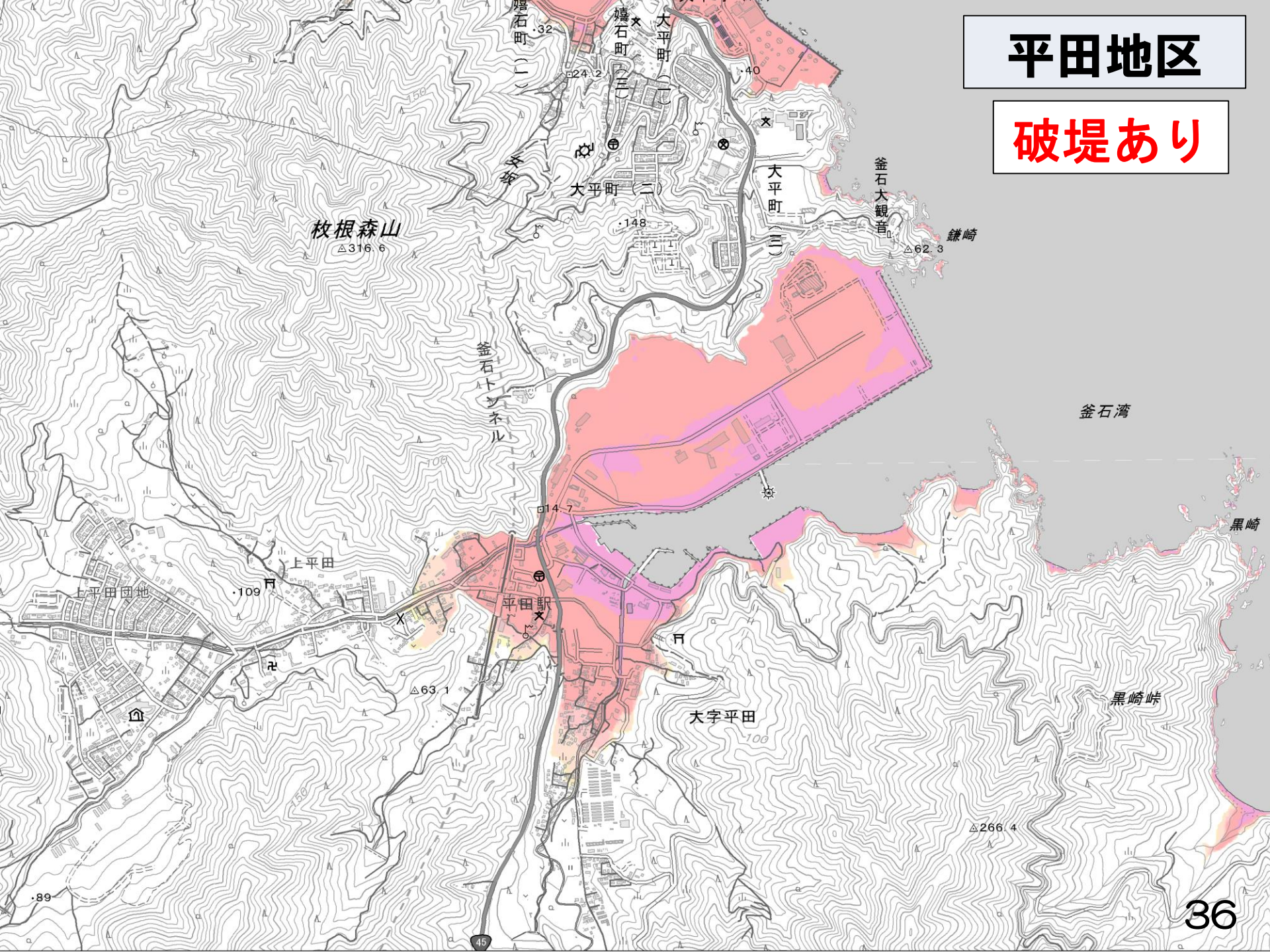
釜石地区(西部)

破堤なし



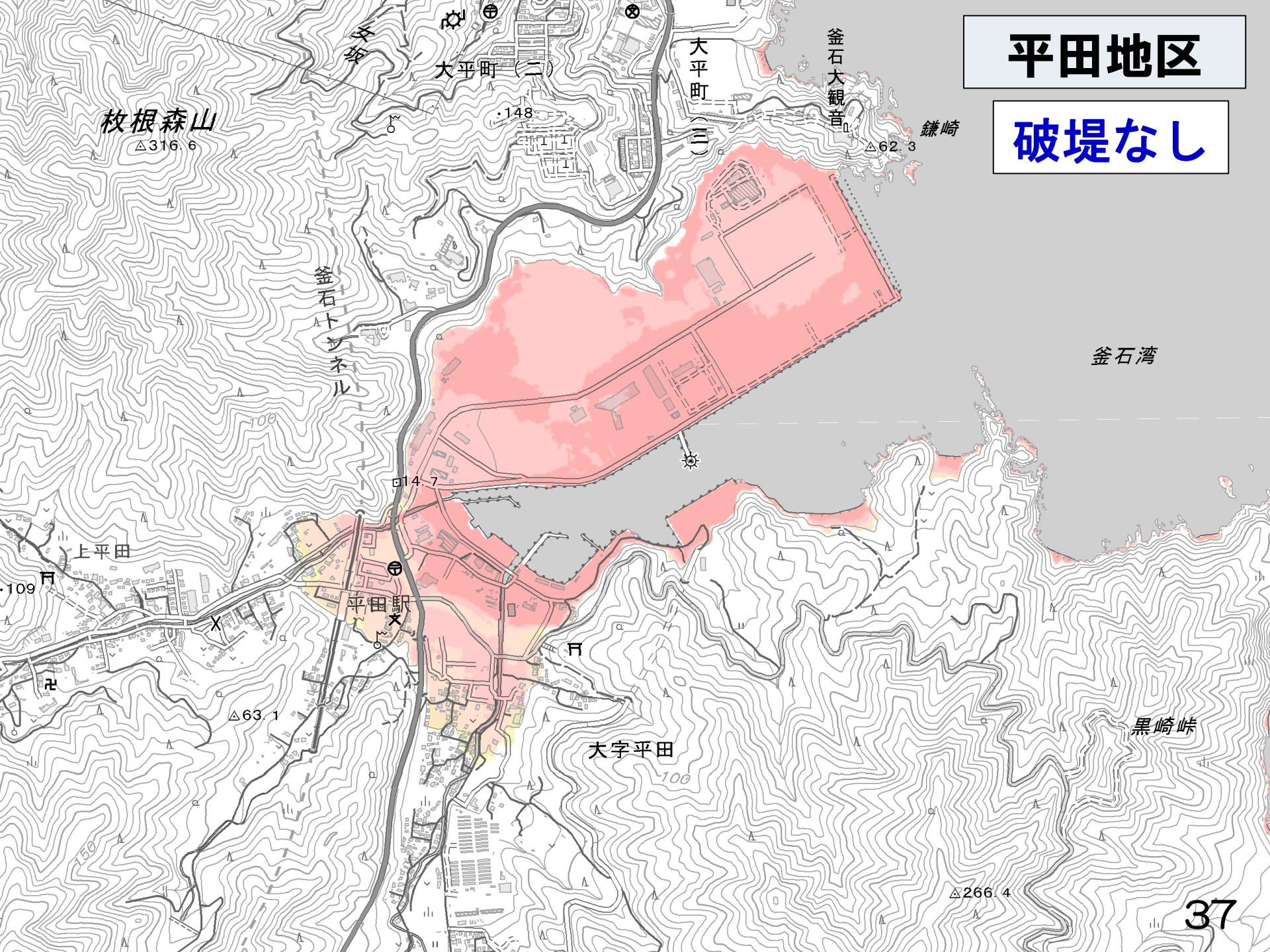
平田地区

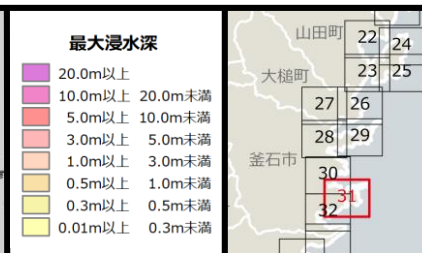
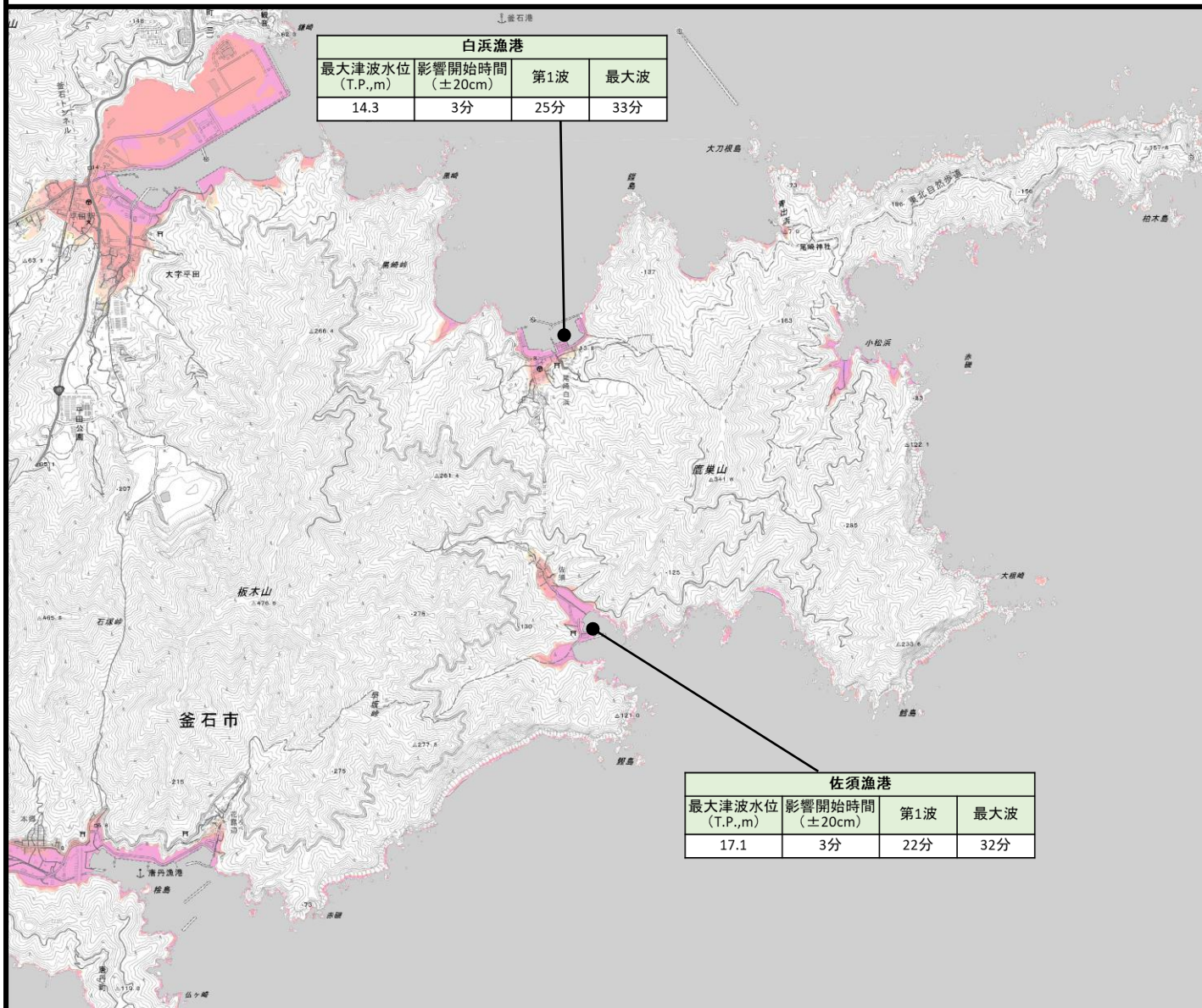
破堤あり



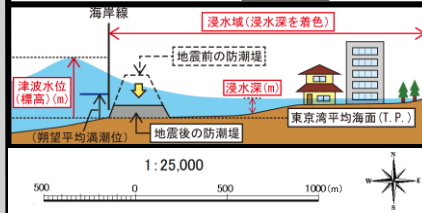
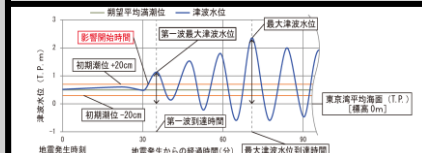
平田地区

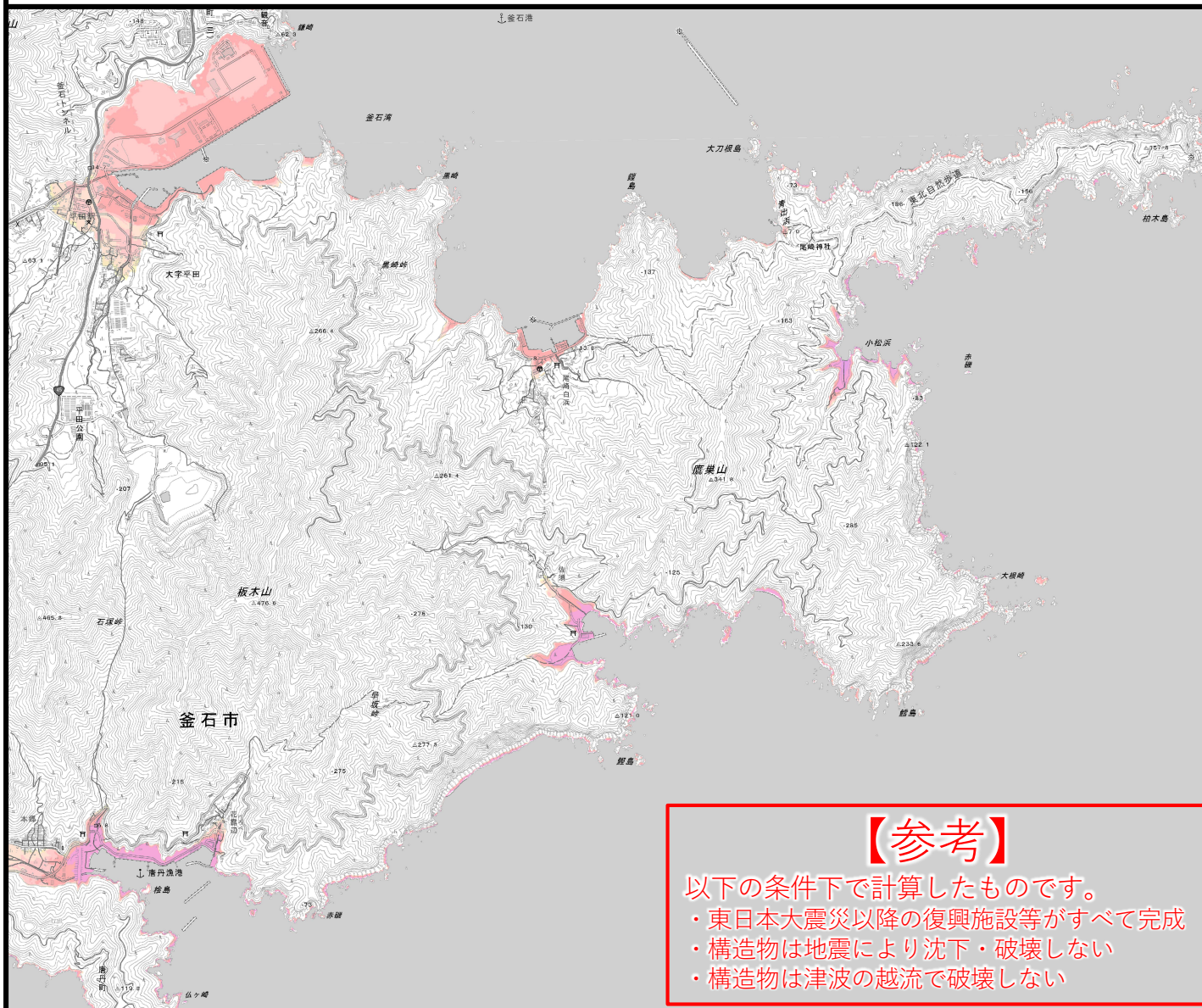
破堤なし





- ◆「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条 第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
 - ◆「津波浸水想定」は、**最大クラスの津波が悪条件下***において発生した場合に想定される浸水の区域（**浸水域**）と水深（**浸水深**）を表したものです。
 - ◆**最大クラスの津波は**、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したもので、「**発生頻度は極めて低いもの、甚大な被害をもたらす津波**」であり、数百年から千年に一度あるいはそれよりも発生頻度が低いものですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
 - ◆「**津波浸水想定**」の浸水域や浸水深は、「何としても人命を守る」という考えの下、避難を中心とした津波防災地域づくりを進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことに注意下さい。
 - ◆浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、**第二波以降に最大となる場所もあります**。
 - ◆浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、**浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります**。
 - ◆「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
 - ◆今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性もあります。
- ※悪条件については、「解説書」に詳細を示しています。





最大浸水深

20.0m以上
10.0m以上 20.0m未満
5.0m以上 10.0m未満
3.0m以上 5.0m未満
1.0m以上 3.0m未満
0.5m以上 1.0m未満
0.3m以上 0.5m未満
0.01m以上 0.3m未満



◆本資料は、防潮堤等の構造物を津波が越流しても破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
 (注) 実際の現象では、防潮堤等が壊れる場合や壊れない場合があると考えられるが、仮に**全て壊れないとした場合を参考として計算したものです。**

◆避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である防潮堤が破壊する条件での計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- ・最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ・計算時の潮位を**朔望平均満潮位**で計算したものです。

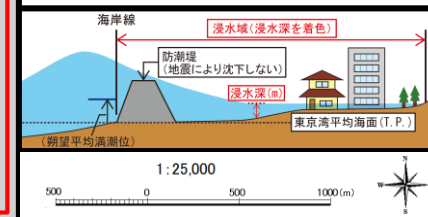
【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- ・造成地や防潮堤等の東日本大震災以降の復興施設のうち、**令和2年度末時点、未完成のものも完成済み**として計算したものです。
- ・耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、**防潮堤等の構造物は、地震により沈下・破壊しないものとして計算したものです。**
- ・津波が防潮堤等の**構造物を越流しても、構造物は破壊しないものとして計算したものです。**

【参考】

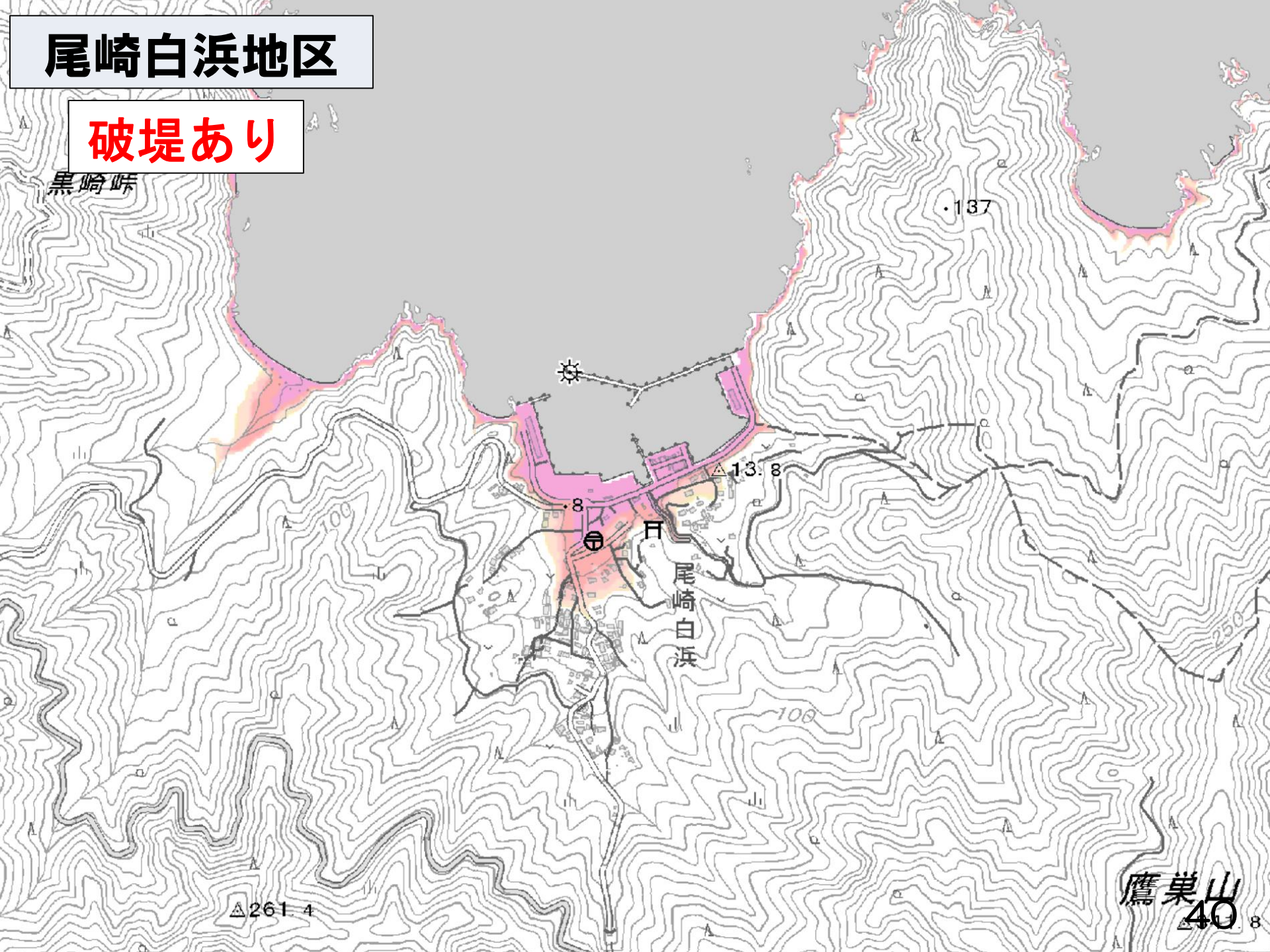
以下の条件下で計算したものです。

- ・東日本大震災以降の復興施設等がすべて完成
- ・構造物は地震により沈下・破壊しない
- ・構造物は津波の越流で破壊しない



尾崎白浜地区

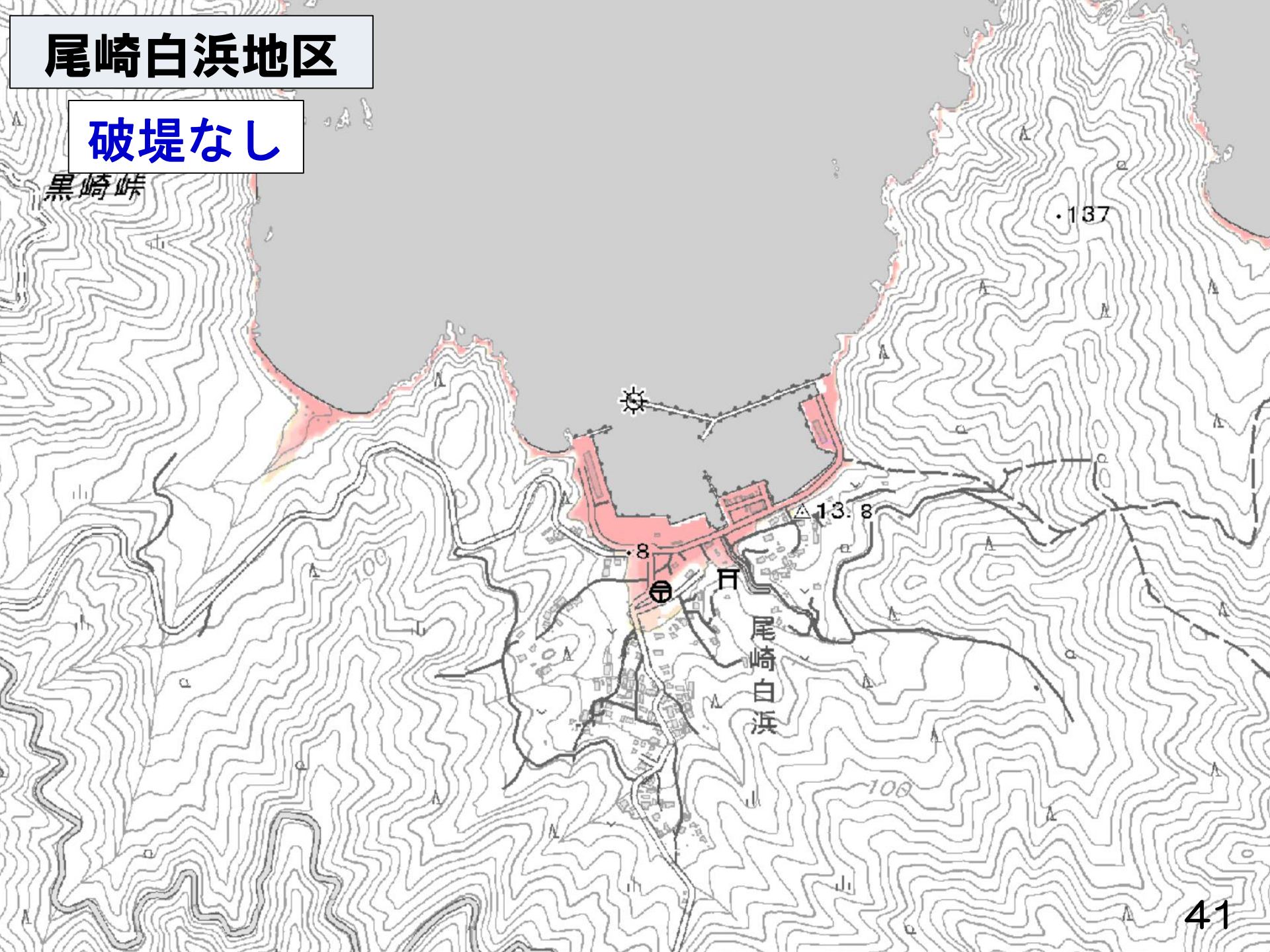
破堤あり



尾崎白浜地区

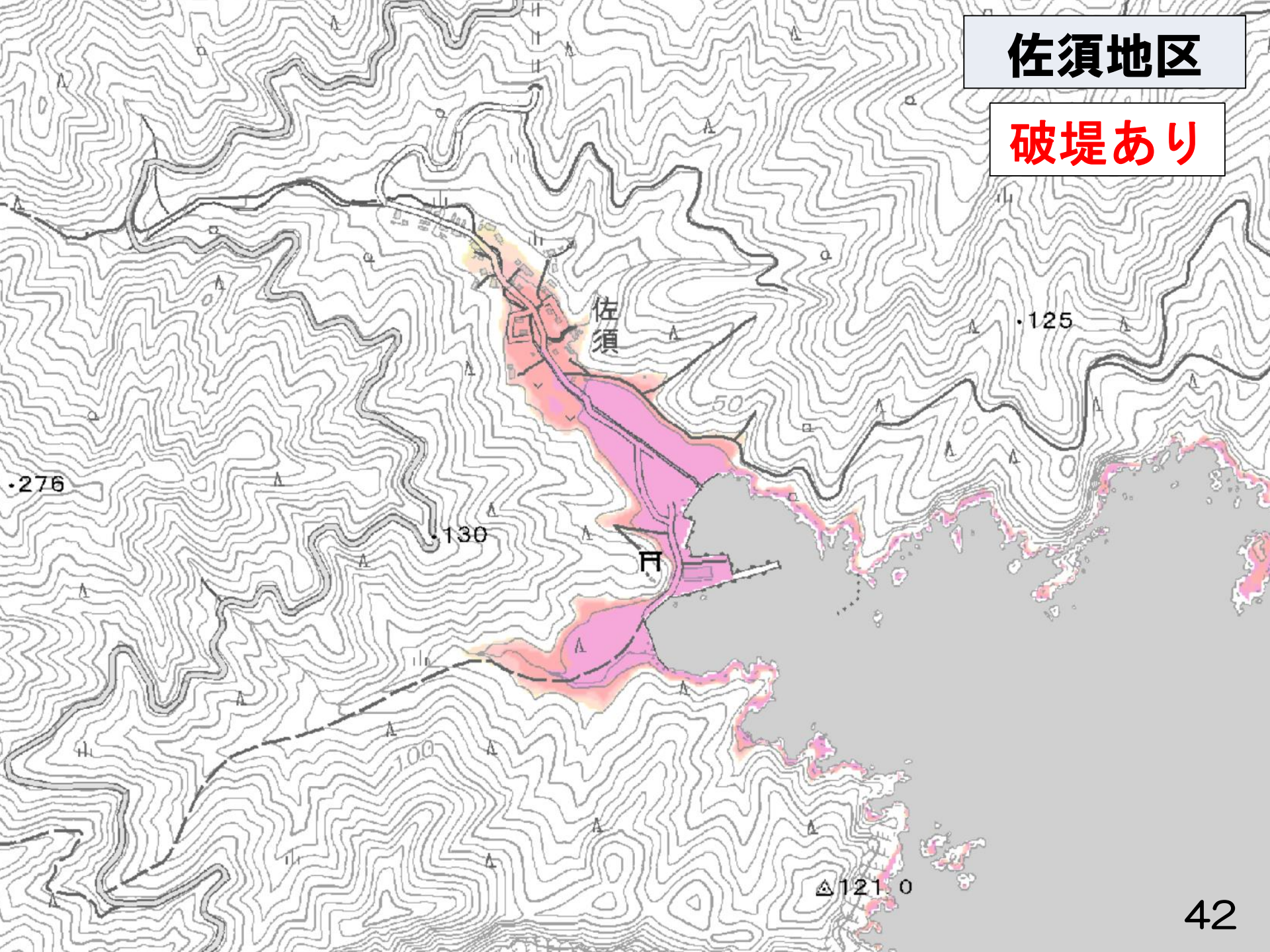
破堤なし

黒崎峠



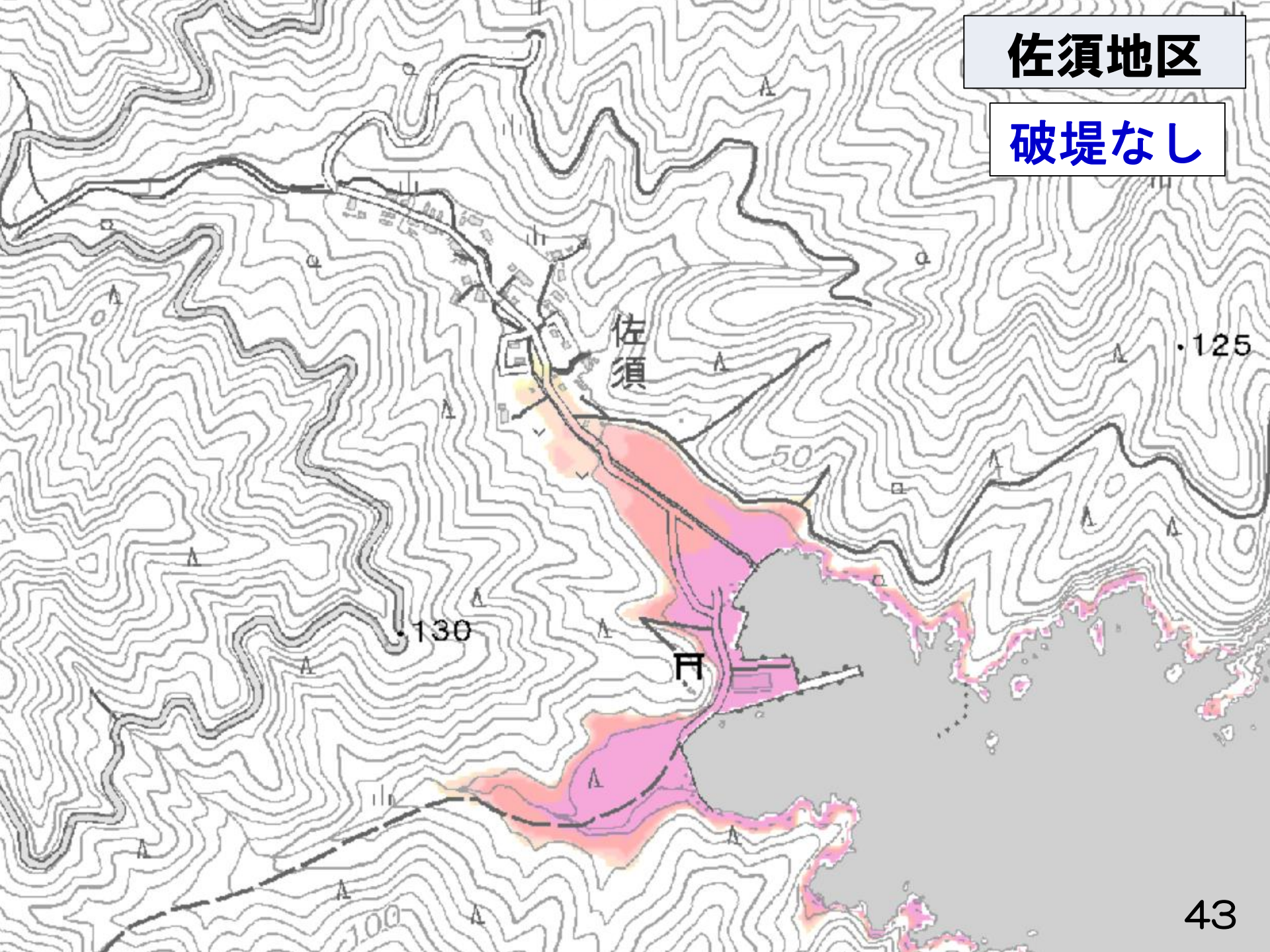
佐須地区

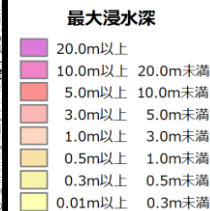
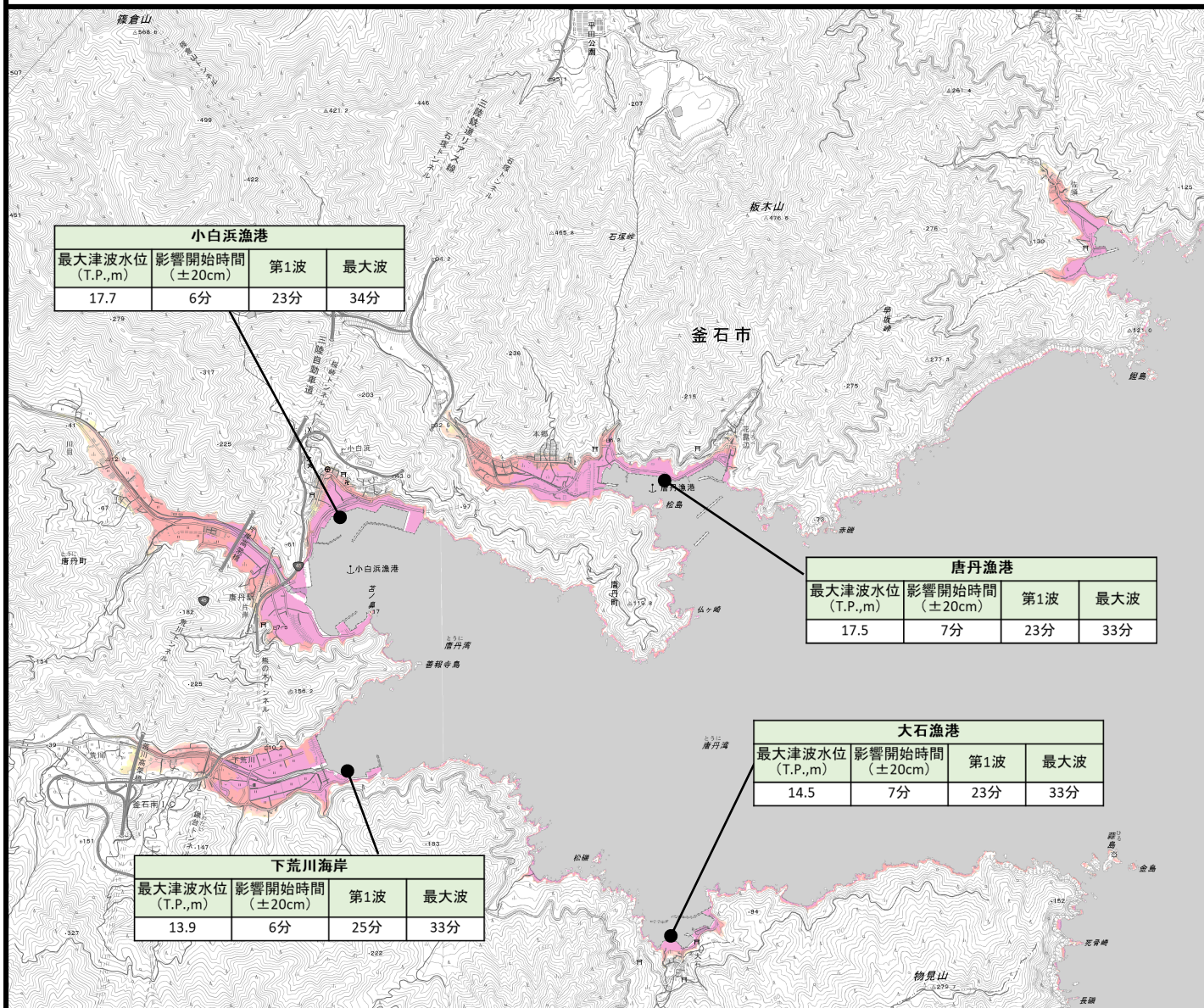
破堤あり



佐須地区

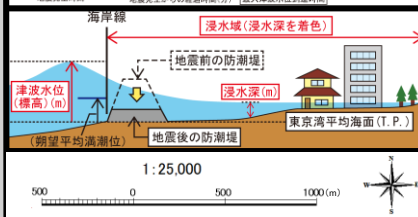
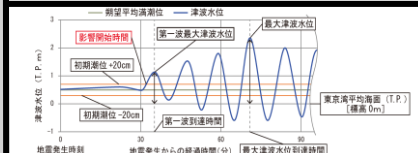
破堤なし





- ◆「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条 第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
- ◆「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下*において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ◆最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したもので、「発生頻度は極めて低いものの、甚大な被害をもたらす津波」であり、数百年から千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- ◆「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、「何としても人命を守る」という考えの下、避難を中心とした津波防災地域づくりを進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことに注意下さい。
- ◆浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- ◆浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- ◆「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
- ◆今後、数値の精査や表記の改善等により、修正の可能性がります。

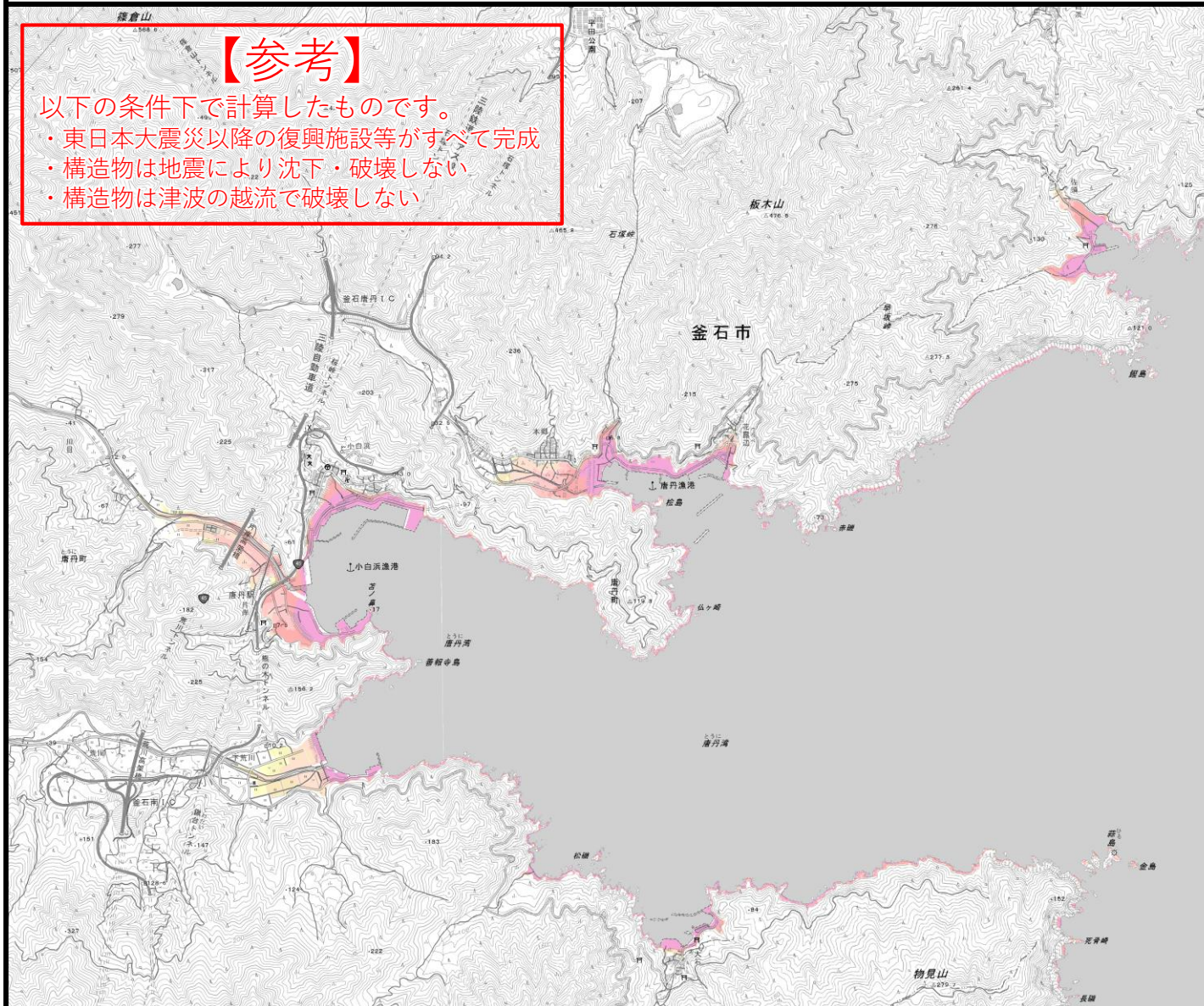
※悪条件下については、「解説書」に詳細を示しています。



【参考】

以下の条件下で計算したものです。

- ・東日本大震災以降の復興施設等がすべて完成
- ・構造物は地震により沈下・破壊しない
- ・構造物は津波の越流で破壊しない



最大浸水深

20.0m以上
10.0m以上 20.0m未満
5.0m以上 10.0m未満
3.0m以上 5.0m未満
1.0m以上 3.0m未満
0.5m以上 1.0m未満
0.3m以上 0.5m未満
0.01m以上 0.3m未満



◆本資料は、防潮堤等の構造物を津波が越流しても破壊しないと仮定した場合の浸水域等を、参考のために計算したものです。
 (注) 実際の現象では、防潮堤等が壊れる場合や壊れない場合があると考えられるが、仮に**全て壊れないとした場合を参考として計算したものです。**

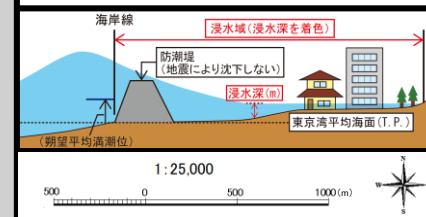
◆避難を軸にした総合的な津波対策を検討する場合は、別途示している「津波浸水想定」である防潮堤が破壊する条件での計算結果を用いる必要があります。

【「津波浸水想定」と同じ計算条件】

- ・最大クラスの津波が発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
- ・計算時の潮位を**朔望平均満潮位**で計算したものです。

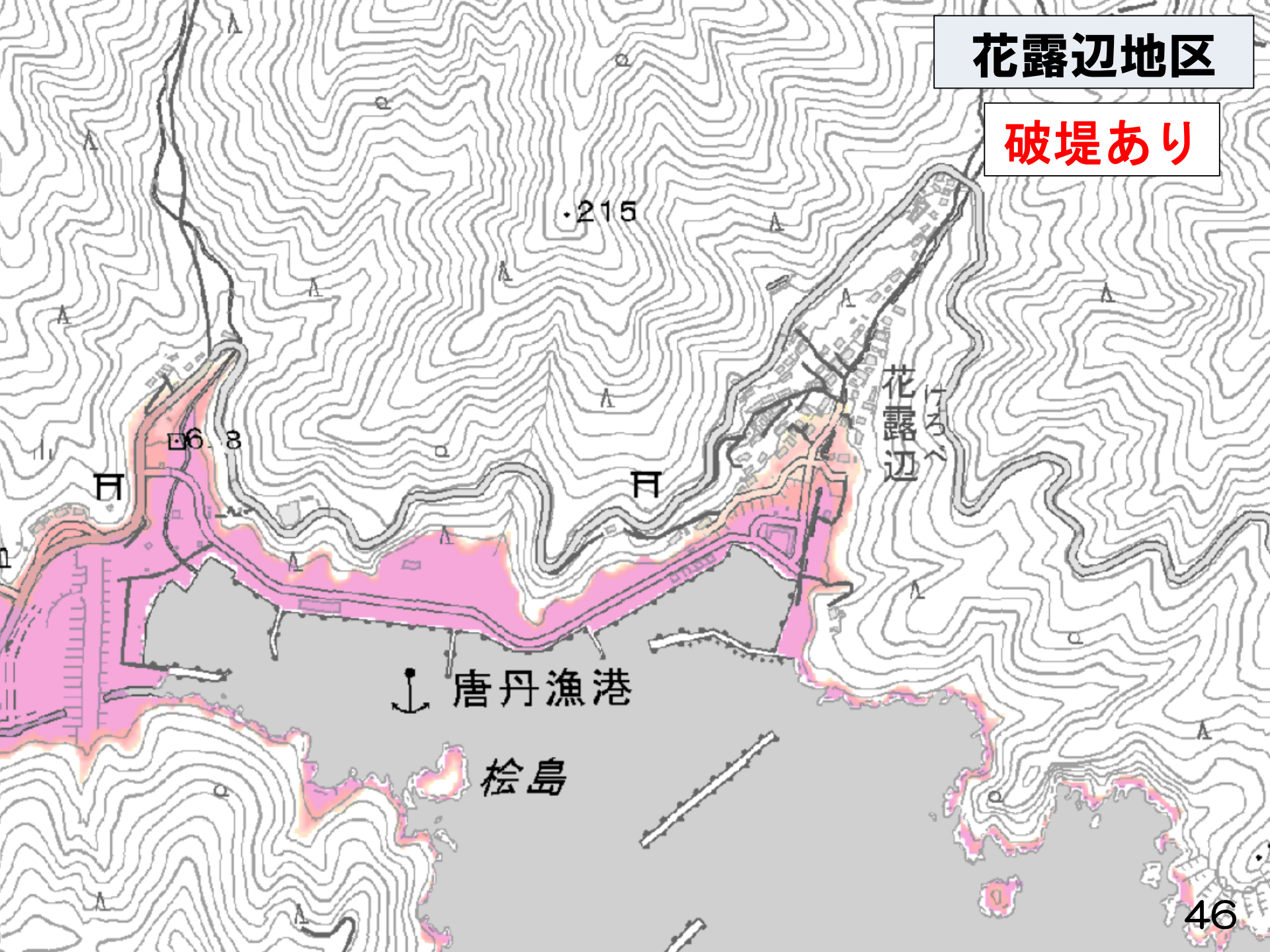
【「津波浸水想定」と異なる計算条件】

- ・造成地や防潮堤等の東日本大震災以降の復興施設のうち、**令和2年度末時点、未完成のものも完成済み**として計算したものです。
- ・耐震性能や液状化の評価結果にかかわらず、**防潮堤等の構造物は、地震により沈下・破壊しないもの**として計算したものです。
- ・津波が防潮堤等の**構造物を越流しても、構造物は破壊しないもの**として計算したものです。



花露辺地区

破堤あり



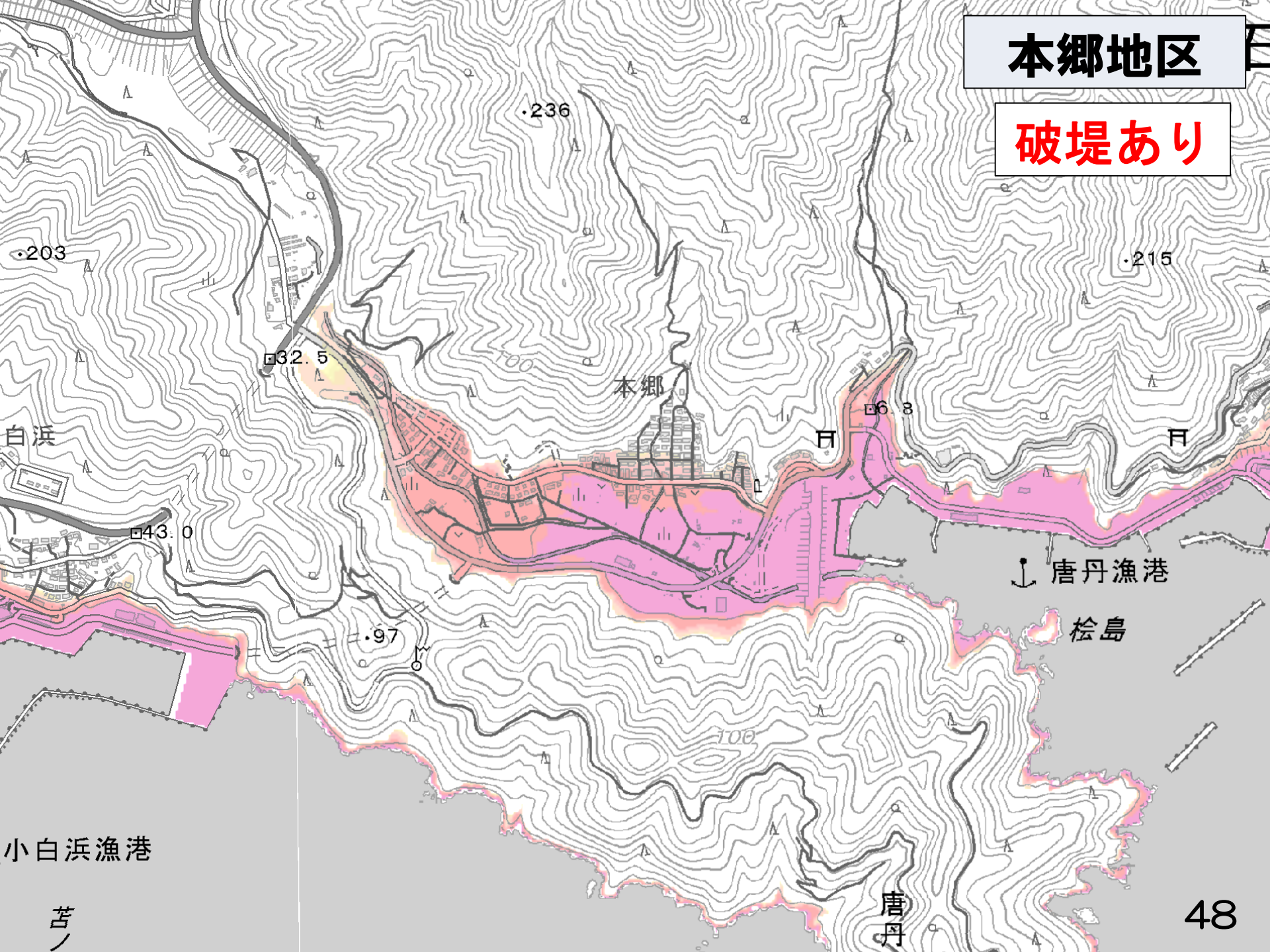
花露辺地区

破堤なし



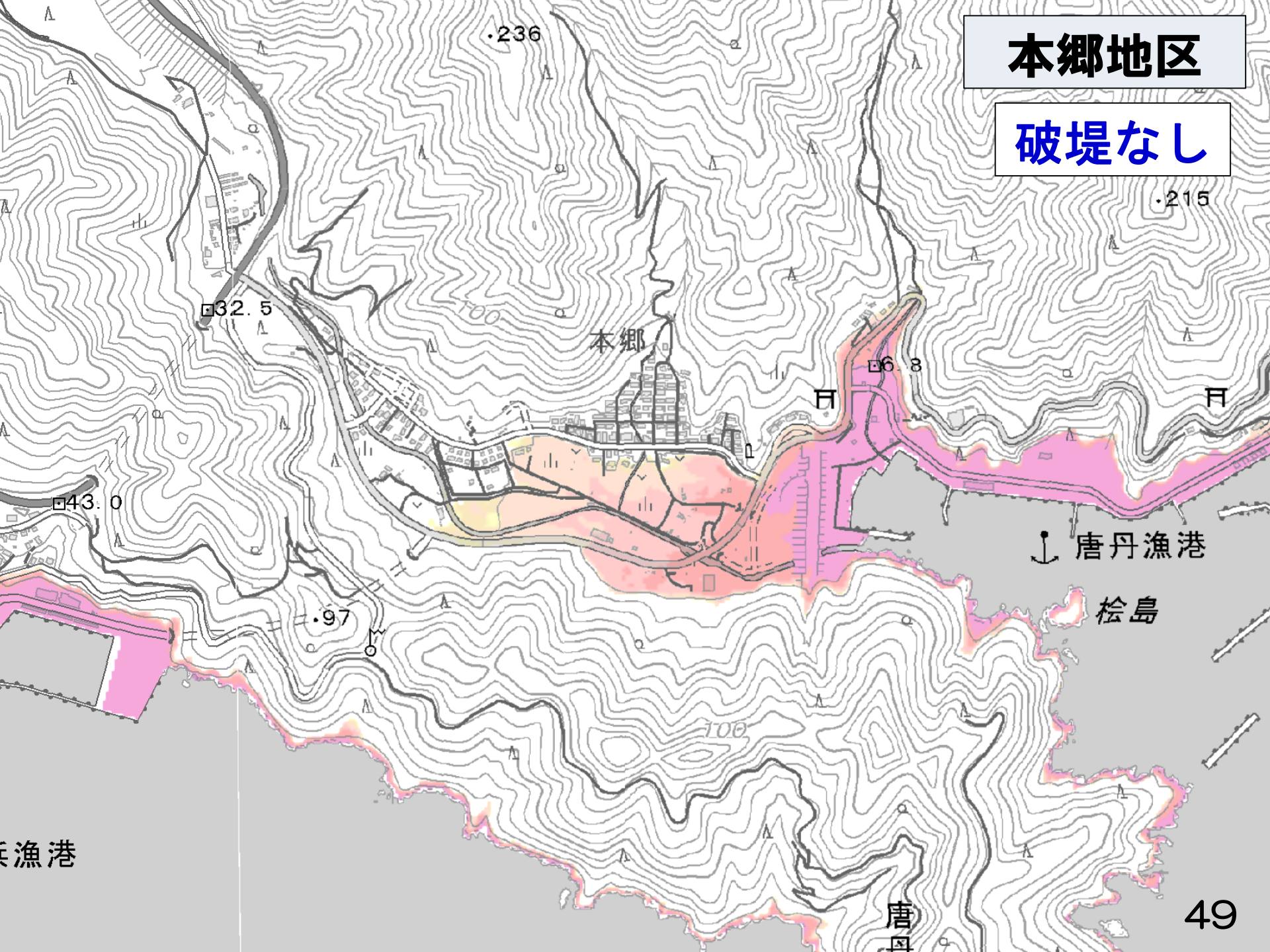
本郷地区

破堤あり



本郷地区

破堤なし

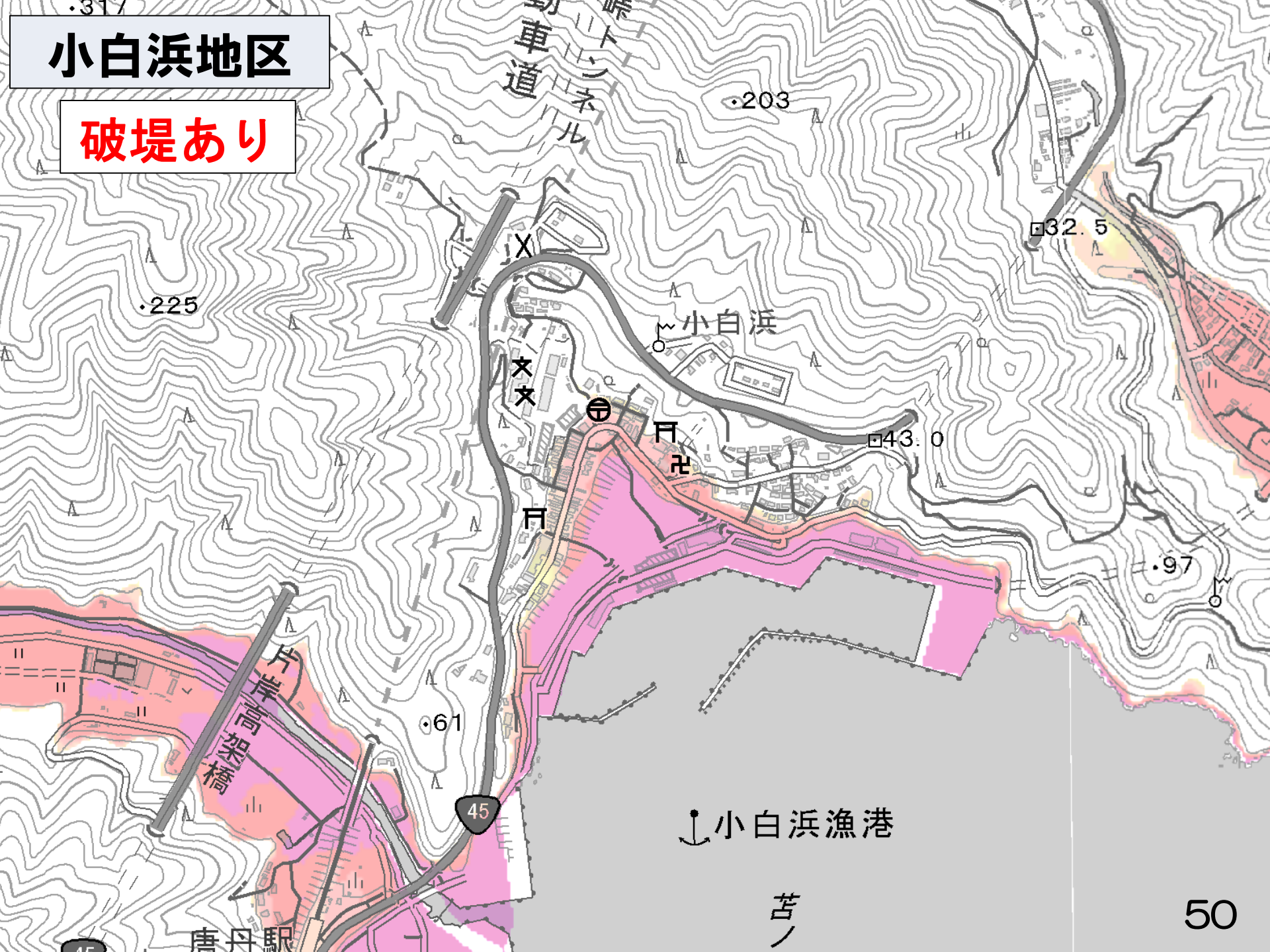


英漁港

唐

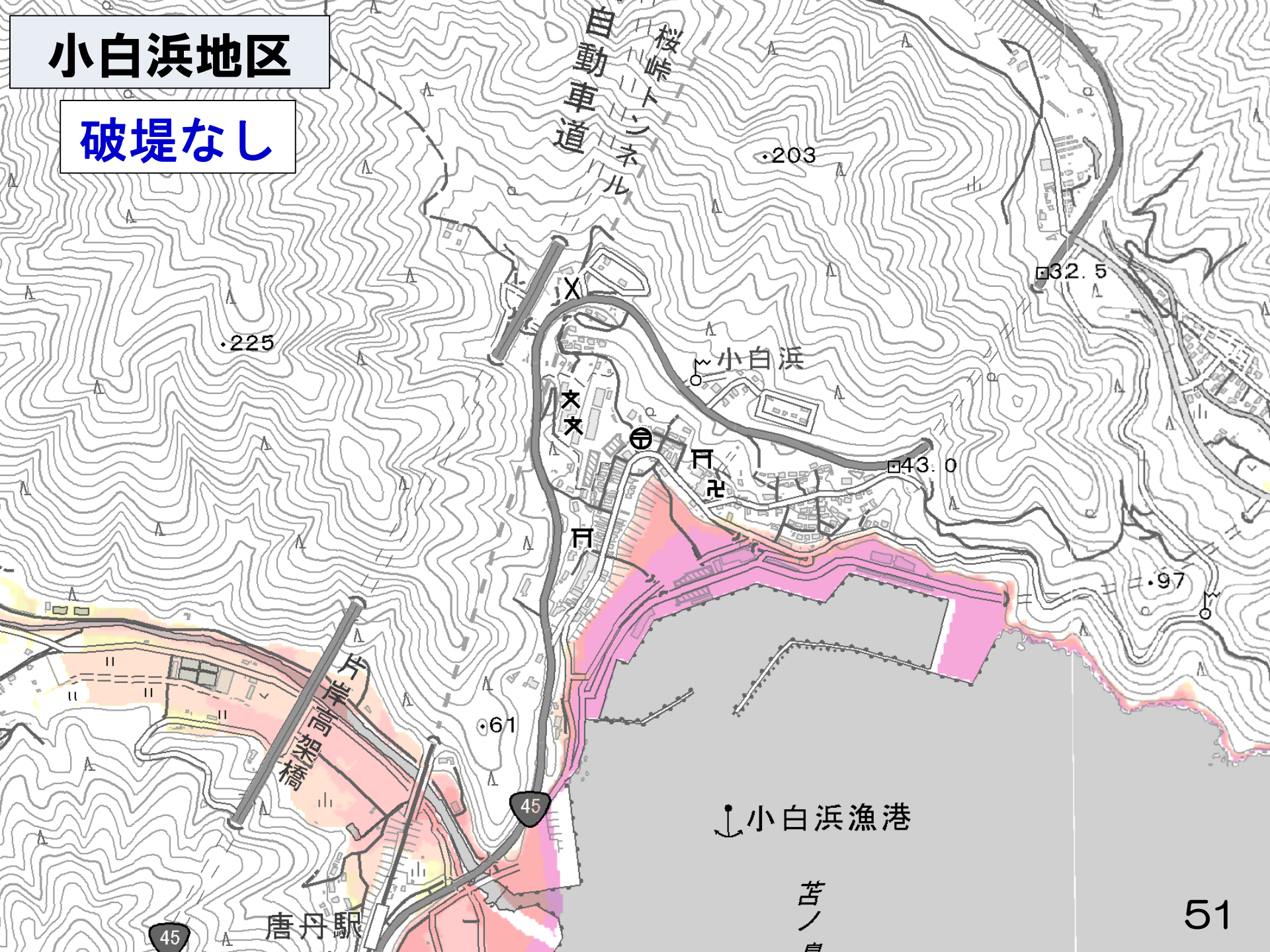
小白浜地区

破堤あり



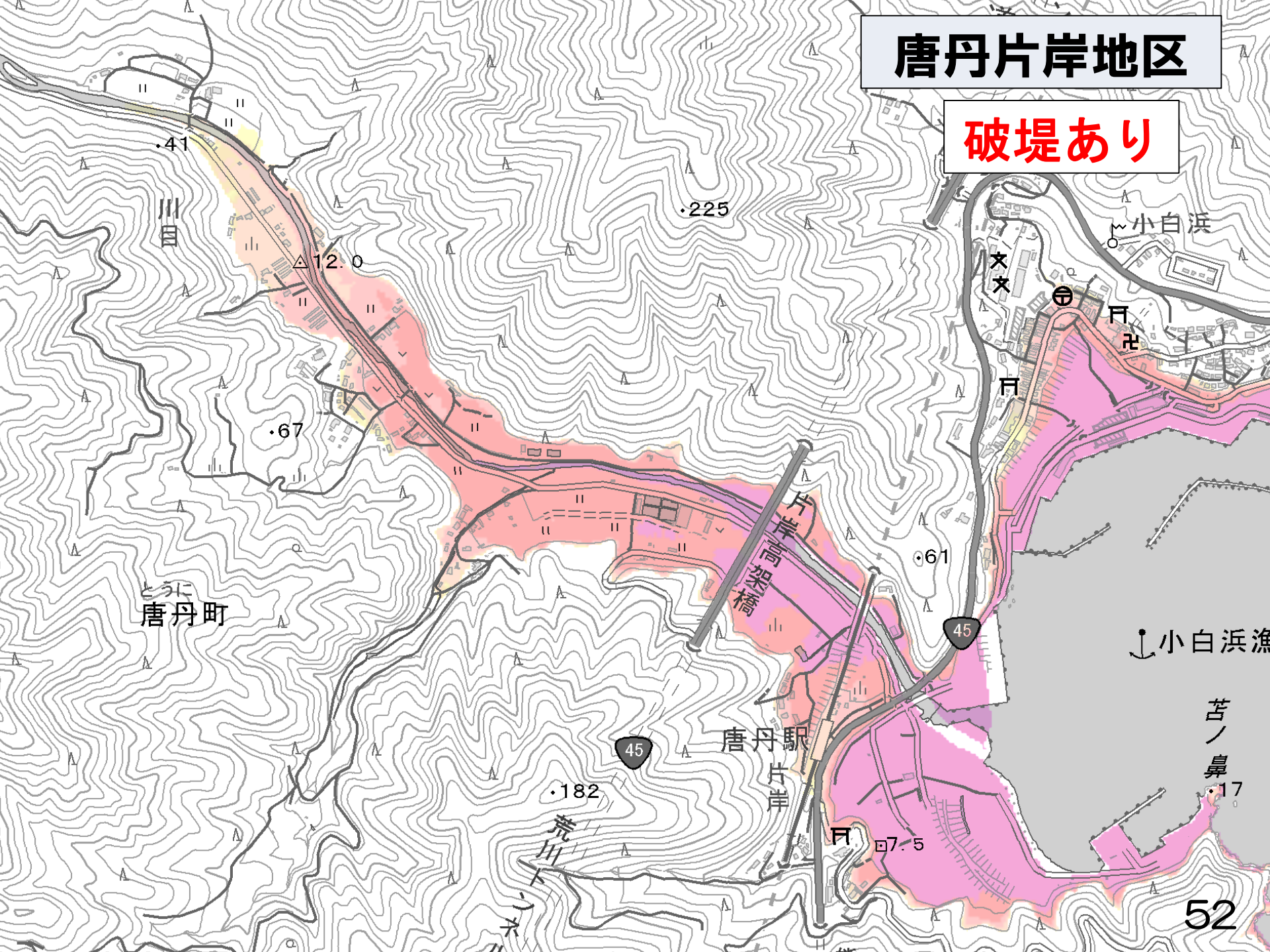
小白浜地区

破堤なし



唐丹片岸地区

破堤あり

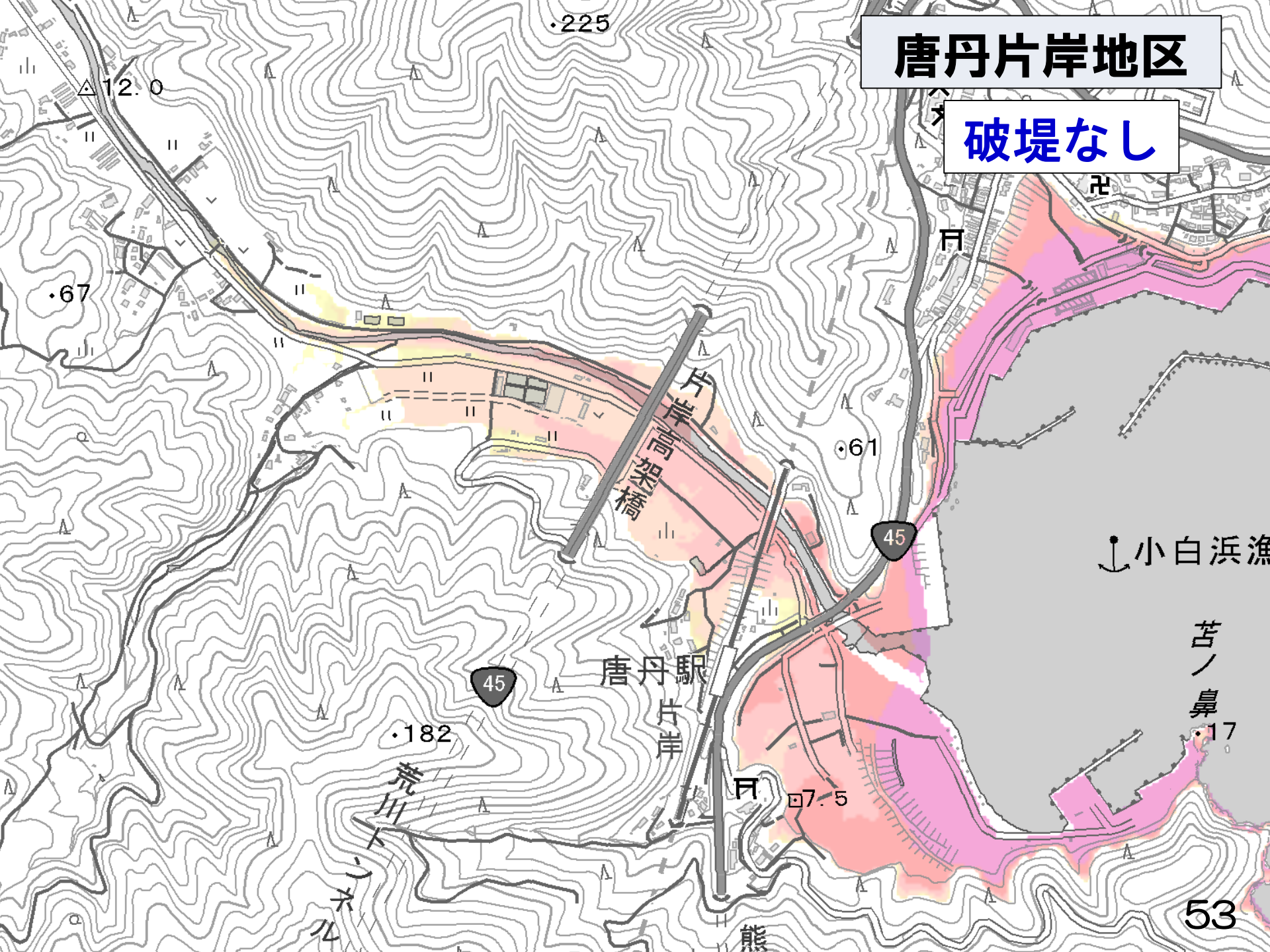


小白浜漁

苦ノ鼻

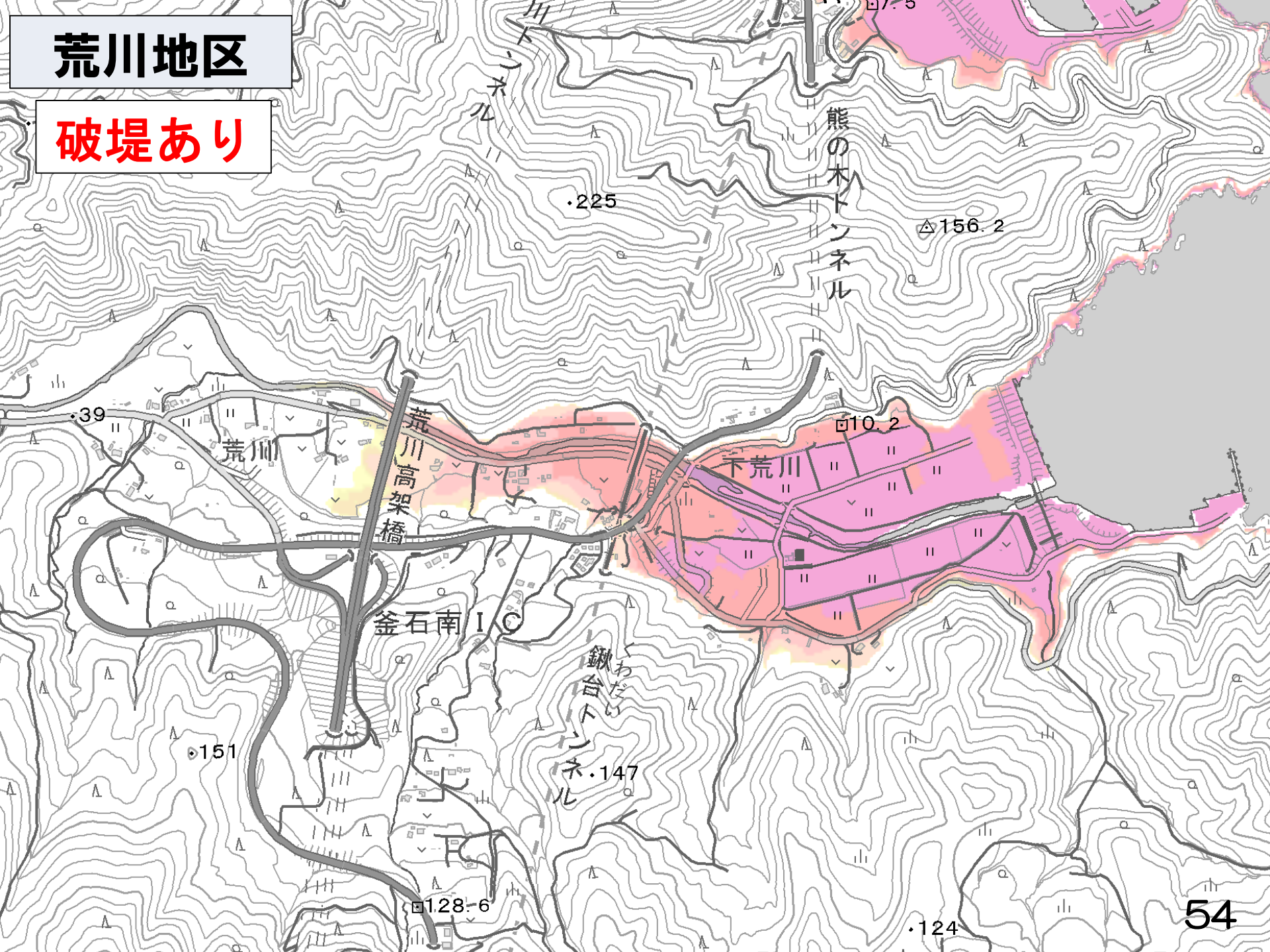
唐丹片岸地区

破堤なし



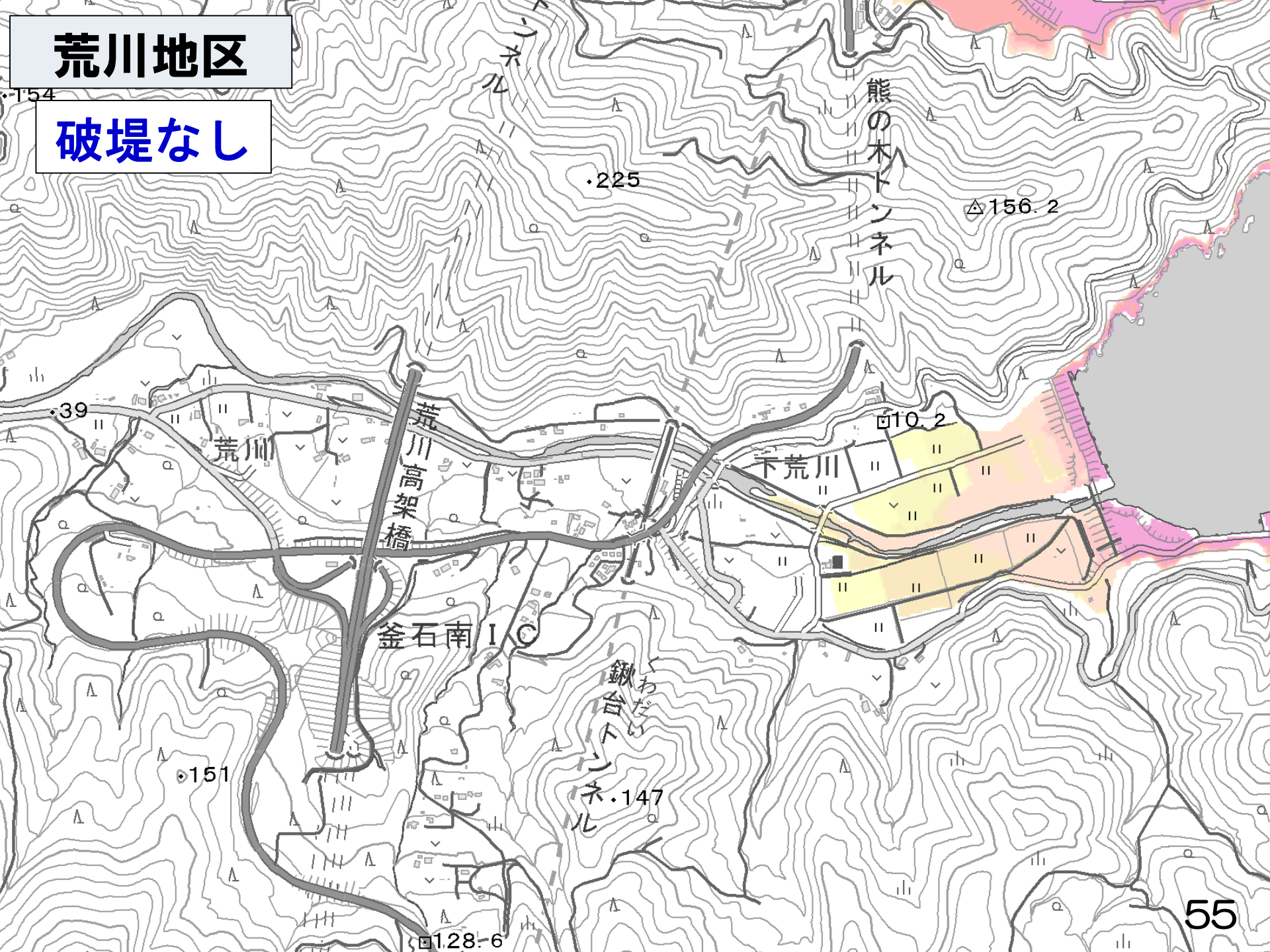
荒川地区

破堤あり



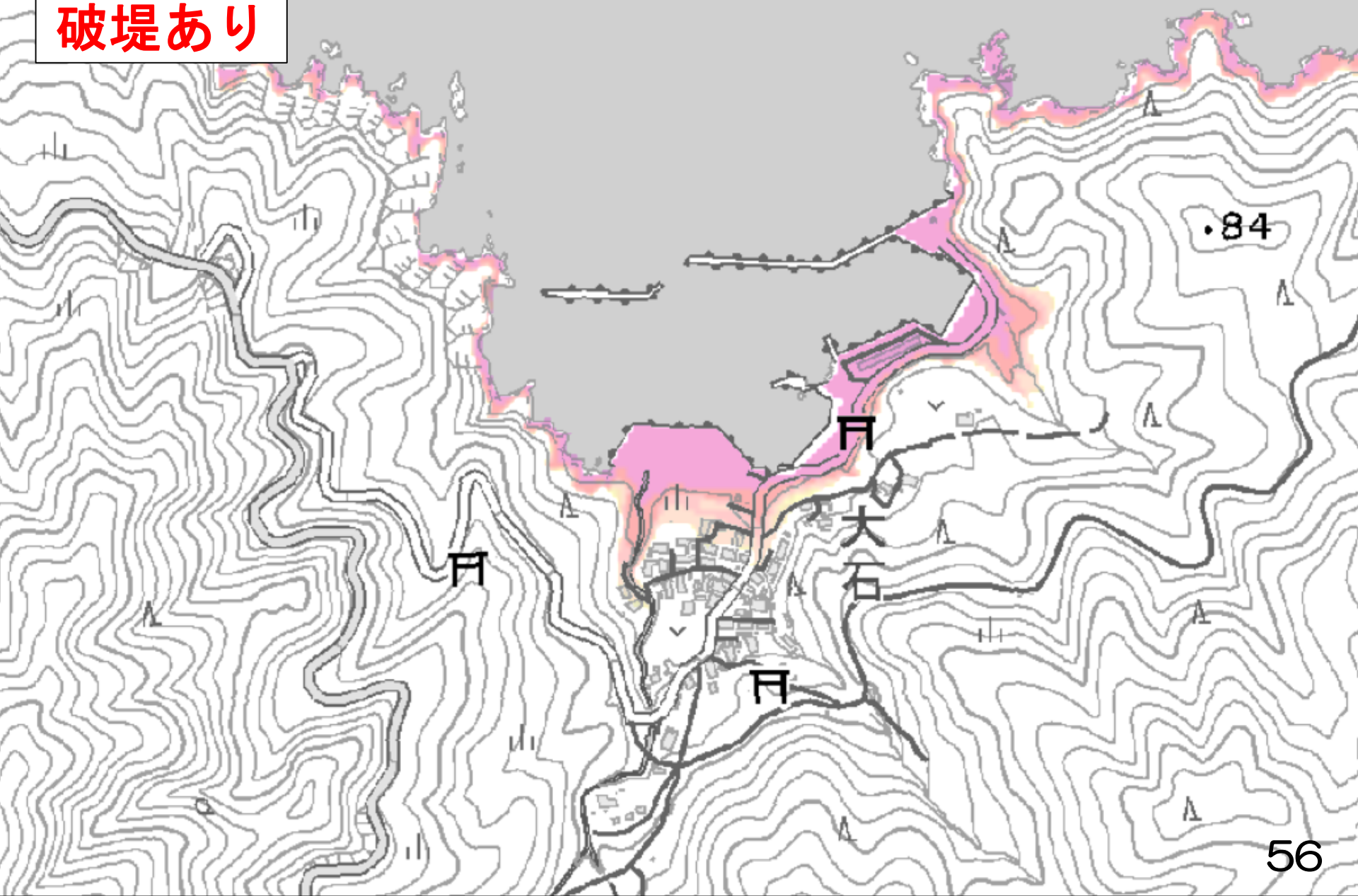
荒川地区

破堤なし



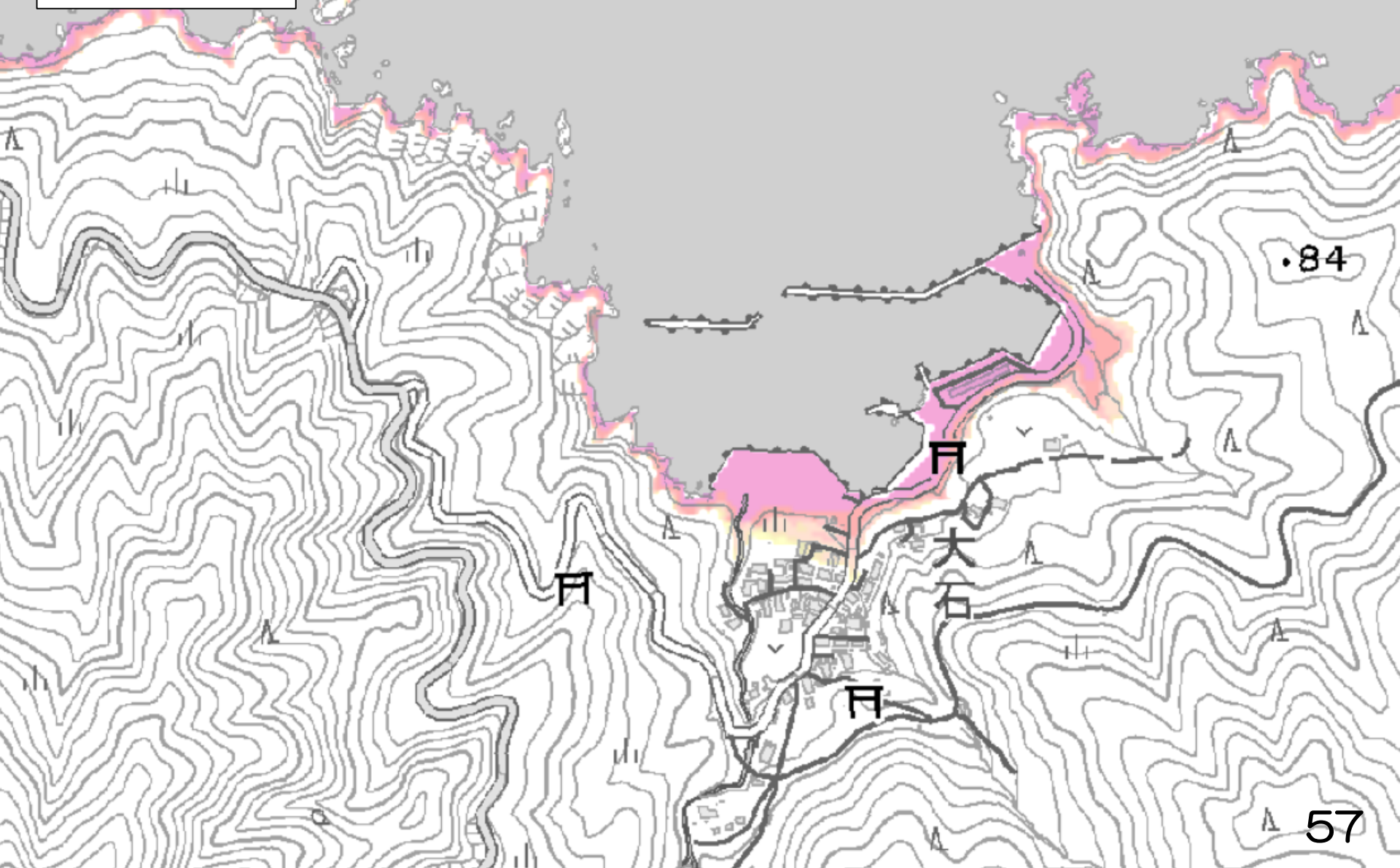
大石地区

破堤あり



大石地区

破堤なし



＜現在の対応状況＞

4月～5月 岩手県浸水想定分析

津波緊急避難場所の調査(市内84か所)

拠点避難所の確認(市内19か所)

＜今後の予定＞

6月～8月 浸水想定に関する住民説明会(4か所)

各地域会議で説明(8か所)

復興まちづくり協議会での説明(21か所)

※住民の皆さまと一緒に避難場所等の見直し
を検討します。

9月 Web版釜石市ハザードマップの更新

9月 津波緊急避難場所等の見直し結果を広報掲載